

Inches 1 2 3 4 5 6 7 8  
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

# Kodak Color Control Patches

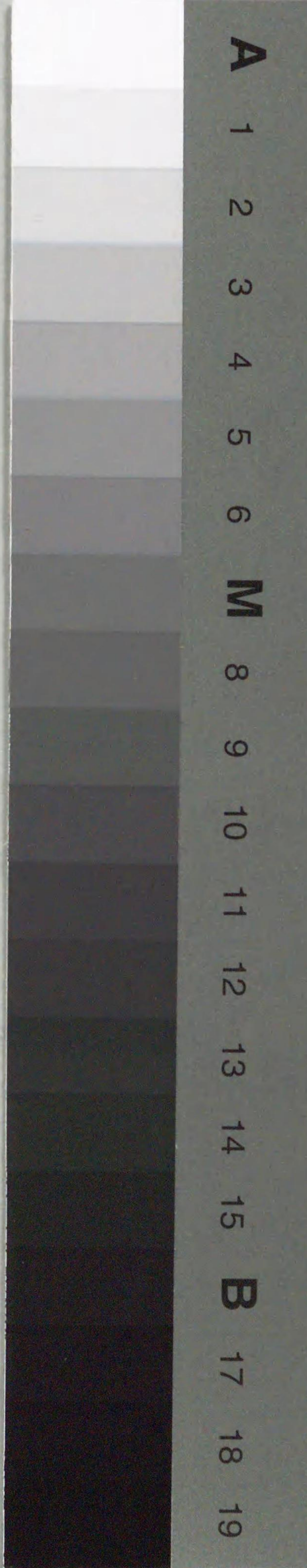
© Kodak, 2007 TM: Kodak



# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



DL7  
10  
75W03722

調查局刊行

# 海外鑛物調查報告

第十二號



北支那開發株式會社調查局



136 7



DL7  
10



本書刊行ニ就テ

本報告書ハ地質調査所ノ刊行ニ係ルモノニシテ最近北支地下資  
 源開發調査ノ進展ニ伴レ其ノ參考資料トシテ最モ貴重ナル文獻  
 ナルニ拘ラズ發行部數僅少ナル等ノ爲メ必要方面ノ需要ヲ充  
 シ得サル實情ニ在リ。仍テ本局ハ特ニ其筋ノ許可ヲ得テ複刊シ  
 本局調査事業竝ニ特殊關係方面ノ用ニ充ツルコトトシタリ。



75W03722





秘 1  
55

海外礦物調查報告 第十二號

目次

山西省大同炭田調查報文

一頁

京綏鐵道沿線 張家口 間礦產地調查報文

六九頁





山西省大同炭田調查報文



# 山西省大同炭田調査報文

## 目次

第一章	地勢	一頁
第二章	地質並ニ地質構造	五頁
第三章	炭層	一一頁
第四章	炭質並ニ炭塊ノ種類	一四頁
第五章	炭量	二〇頁
第六章	炭礦ノ沿革及現狀	二二頁
	(甲) 上部石炭紀ニ屬スル炭礦	二七頁
	(乙) 珠羅紀ニ屬スル炭礦	四三頁
	(丙) 珠羅紀乃至珠羅紀以後ニ屬スル炭礦	五六頁
第七章	採掘法、坑夫ノ能率及賃金	五九頁



第八章	運搬狀況、石炭ノ販路及小賣價格	六〇頁
第九章	通貨	六四頁
第十章	支那官憲ト炭礦	六六頁

# 山西省大同炭田調査報文

臨時産業調査局技師 門倉三能

大正七年八月上旬ヨリ十二月上旬ニ亙リ約四箇月ヲ以テ山西省ノ大同、懷仁、山陰、應朔、代、平魯、右玉(朔平)、左雲各縣、察哈爾特別行政區域ノ豐鎮縣及歸綏特別行政區域ノ涼城(寧遠)縣ニ於ケル鑛產地ヲ調査セリ、茲ニ附圖ヲ添ヘ調査ノ概略ヲ報告ス、本調査ニ際シ技手堀内米雄氏ハ地形測量ヲ擔當シ龍岡昇氏ハ通譯ノ任ニ當レリ

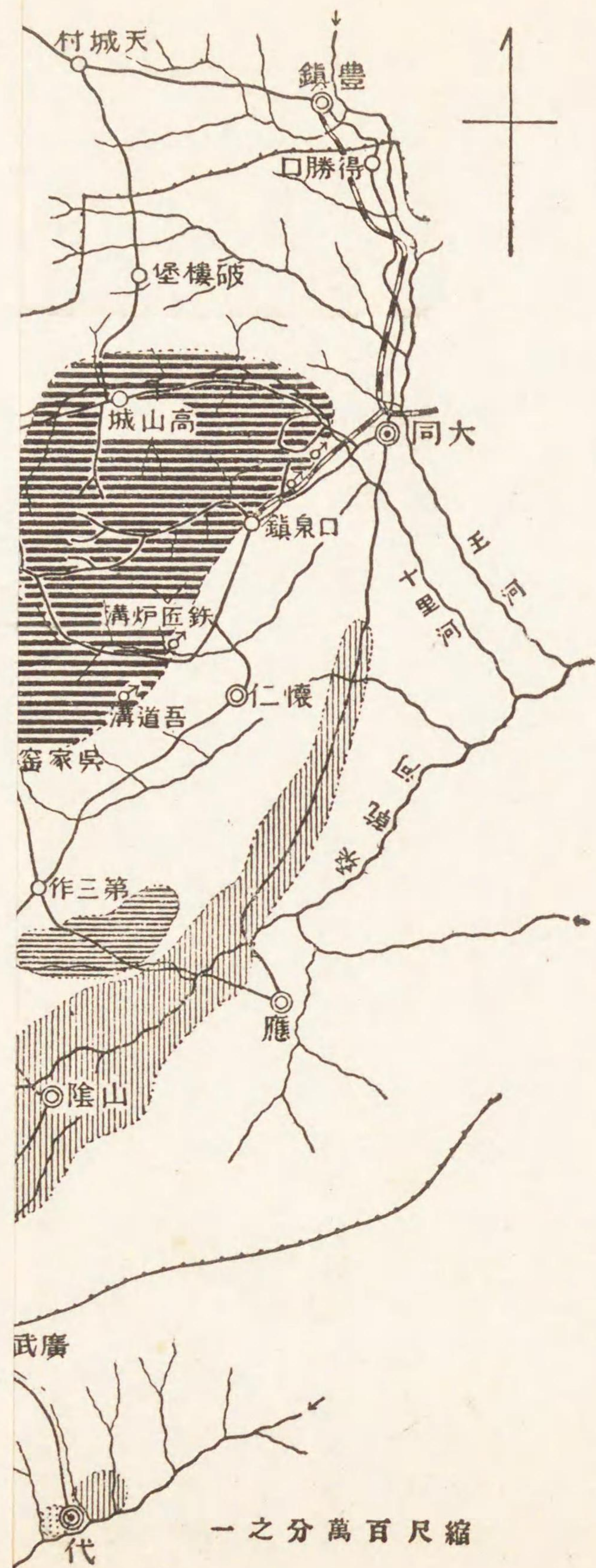
報文中尺ハ總テ日本尺ニシテ畝ハ我六畝六步ニ相當ス、附圖ハ野稿圖ニ據リ其高距線ハ大要ノ地形ヲ知ルニ便セン爲メ之ヲ描キタルモノナリ



## 第一章 地勢

大同ノ南方ヨリ朔ノ南西方ニ亙リ大同、懷仁、應、山陰及朔ノ五縣城ヲ包括セル大同

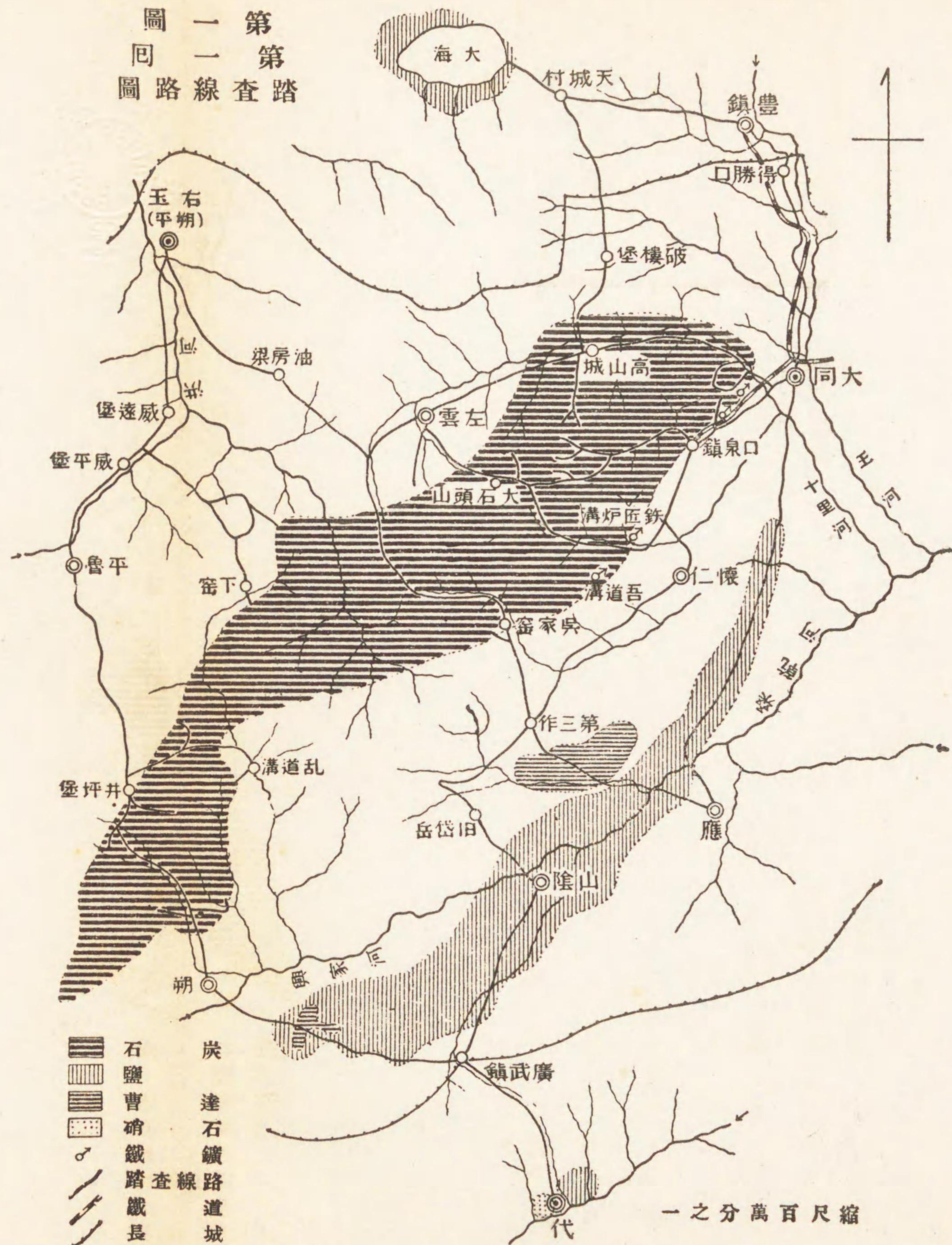




平原アリテ桑乾河之ヲ貫流シ其流域ニハ古來鹽及曹達ヲ産ス本平原ハ北東ヨリ  
 南西ニ布衍シテ延長約百五十基米幅員二十五基米乃至五十基米ニ達シ大同縣城  
 ニ於テ海拔千四十四米ナリ  
 大同平原ノ北西ノ邊緣ニ沿ヒテ隆起セル山脈アリ之ヲ假リニ口泉山脈ト稱ス本  
 山脈ハ北方山底ニ起リ小站口泉鎮鷺毛口外窰山等ヲ經テ南方劉家窰子及亂道溝  
 附近ニ至リテ終ル其主峯ハ七峯山涼帽山塔山清良山亂花溝山東山等ニシテ大同  
 平原ヲ拔クコト約六百米即チ海拔千五百米乃至千八百米ニ達シ岩盤露出シテ突  
 兀タル山貌ヲ呈ス  
 口泉山脈ノ北西側ニ沿ヒ北東ヨリ南西ニ布衍セル海拔千三百米内外ノ丘陵地帶  
 アリテ全般ヲ通シ石炭ヲ産出ス是即チ大同炭田ニシテ大同左雲懷仁朔平魯及右  
 玉朔平ノ五縣管内ニ跨レル長大ナル地積ヲ占メ北東ヨリ南西ニ約百十基米北西  
 ヨリ南東ニ約十七基米ニ及ヘリ  
 丘陵地帶ノ北西側ニ沿ヒ隆起セル山脈アリ南北ノ二部ニ分ル假リニ北部ナルヲ  
 牛心山々脈南部ナルヲ西石山々脈ト稱ス



第一圖  
第一回  
踏查線路圖



平原ヲ拔クコト約六百米即チ海拔千五百米乃至千八百米ニ達シ岩盤露出シテ突兀タル山貌ヲ呈ス

口泉山脈ノ北西側ニ沿ヒ北東ヨリ南西ニ布衍セル海拔千三百米内外ノ丘陵地帯アリテ全般ヲ通シ石炭ヲ産出ス、是即チ大同炭田ニシテ大同、左雲、懷仁、朔、平魯及右玉(朔平)ノ五縣管内ニ跨レル長大ナル地積ヲ占メ北東ヨリ南西ニ約百十基米、北西ヨリ南東ニ約十七基米ニ及ヘリ

丘陵地帯ノ北西側ニ沿ヒ隆起セル山脈アリ南北ノ二部ニ分ル、假リニ北部ナルヲ牛心山々脈、南部ナルヲ西石山々脈ト稱ス

縮尺百萬分一



牛心山々脈ハ右玉縣、大海及豐鎮縣ニ亙リテ廣大ナル地積ヲ占ムル海拔約千七百  
米ノ地卓(Mesa)ニシテ其南端ハ牛心堡附近ニ終リ牛心山、老龍王山、雙山角及大南山  
ノ如キ略圓錐形ノ孤山ヲ形成ス  
西石山々脈ハ牛心山々脈ノ南西方張家山ニ起リ下窰威平堡、平魯縣、且子山等ニ亙  
リテ廣濶ナル一帯ノ山地ヲ形成シ高距略齊一ニシテ交界、且子山間ニ位スル西石  
山ヲ除キテ著シキ山峯ナク海拔平均千七百米内外ナリ、本山脈ハ且子山附近ヨリ  
南ニ彎曲シ茲ニ岩盤露出シテ峨々タル山貌ヲ呈シ其南端ハ五里坡山ニ終ル  
河流ハ本炭田ノ丘陵地ニ發源シ西石山々脈又ハ口泉山脈ヲ横斷シテ流レ所謂横  
谷ヲ形成ス、即チ西石山々脈ヲ横斷シテ北流スルモノニ洪河アリ、右玉縣及殺虎口  
ヲ經テ黄河ノ支流清水河ニ合ス、口泉山脈ヲ横斷シテ東流或ハ南流スルモノニ十  
里河、水神廟河、吳家河、大河等アリ、皆大同平原ヲ灌流スル桑乾河ニ合ス  
大小ノ都會ハ本炭田ヲ圍繞シテ其周邊ニ散在ス、其著シキモノヲ舉クレハ其南東  
邊ニハ大同縣、口泉鎮、懷仁縣、舊岱岳及朔縣、其北西邊ニハ左雲縣、右玉縣、平魯縣及井  
坪堡アリ



大同縣ハ古來山西省北部ノ重鎮ヲ爲シ太原省城ニ次ク大都會ニシテ清朝時代ノ大同府ナリ、現ニ晋北鎮守使及雁門道々尹ノ駐スル縣城ニシテ交通ノ要衝ニ當リ物資ノ集散市場タリ、北京、豐鎮間ノ京綏鐵道ハ民國四年九月ニ開通シテ北京、張家口、大同及豐鎮ヲ連絡シ大同ヨリ口泉鎮ニ至ル大同運炭支線ハ同五年十二月建設ニ著手セラレ同七年九月開通セリ

口泉鎮ハ水神廟川ニ臨ミ其上流ニ十餘ノ炭礦ヲ有シ石炭ノ集散盛ニシテ大左懷煤礦警務總局竝ニ大左懷煤礦商務總會ノ所在地ナリ、今ヤ運炭支線完成シ諸炭礦ノ發展ト共ニ日ニ殷盛ニ赴カントス

懷仁縣、舊岱岳及朔縣ハ各西方山地ニ數炭礦ヲ有シ石炭ノ產出少ナカラス、又東方ノ平地ニ於テハ應縣及山陰縣ニ互リ一般ニ製鹽ノ業盛ニシテ所謂土鹽ヲ產出ス左雲縣ハ大同縣ニ次ク殷盛ナル縣城ニシテ其東方三十支那里乃至五十支那里ノ地ニ十餘ノ炭礦アリテ盛ニ石炭ヲ產出ス、同地ハ本炭田ノ北部ニ於ケル交通線路ノ集中スル處ニシテ北東ニハ高山城ヲ經テ大同縣ニ至ル百二十支那里、東ニハ大石頭山ヲ經テ口泉鎮ニ至ル九十支那里、東南東ニハ水窰ヲ經テ懷仁縣ニ至ル九十

八支那里、南東ニハ馬道頭及吳家窰ヲ經テ第三作ニ至ル九十二支那里、北西ニハ牛心堡ヲ經テ右玉縣ニ至ル九十支那里、西南西ニハ左衛及威遠堡ヲ經テ平魯縣ニ至ル百二十五支那里ノ六道路アリテ皆車行シ得ヘシ

右玉縣(朔平)ハ前清ノ朔平府ニシテ古來北門ノ要地トシテ口外(長城以北殊ニ歸化城、綏遠城及包頭トノ往來頻繁ニ從ヒテ市況殷盛ナリ)シモ近年京綏鐵道ノ延長ト共ニ口外ニ於ケル交通ノ幹線ハ全ク豐鎮縣ニ移動シ頓ニ衰退セリ

平魯縣ハ要害ノ地トシテ稍知ラレ宏大ナル城壁ハ相迫レル二山ニ跨リテ聳立シ石灰岩ノ岩塊ヲ以テ構成セラル、現時城内ハ全ク廢頽シテ一農村タルノ觀アリ井坪堡ハ附近ニ數炭礦ヲ有シ石炭ノ產出多ク市況ハ繁盛ニシテ遙ニ平魯縣ヲ凌駕セリ

## 第一章 地質並ニ地質構造 (第一版)

(參照)

本炭田附近ヲ構成スル地質ヲ層序ニ依リ區別シ下位ヨリ順次上位ノモノヲ示セハ左ノ如シ



(一) 片麻岩(泰山系)…………… 太古代

(二) 赤褐色頁岩層…………… 塞武利亞、オールドヴキシア紀

(三) 下部含炭層及砂岩層…………… 上部石炭紀

(四) 暗紅色頁岩及砂岩層…………… 二疊三疊紀(?)

(五) 上部含炭層…………… 珠羅紀

(六) 赤色砂岩層…………… 珠羅紀乃至珠羅紀以後

(七) 玄武岩…………… 第四紀

(八) 黃土…………… 第四紀

片麻岩(泰山系)ハ、口泉山脈ノ北部ニ於ケル山峰ヲ構成シ更ニ中部ノ南東山麓ニ露出シ又西石山々脈ノ北西側ニ沿ヒ右玉縣、威遠堡、威平堡等ニ互リテ廣ク布行セリ、本岩ハ外觀暗灰色又ハ紅色ヲ呈ス、暗灰色種ハ細密ナル角閃片麻岩及黑雲母片麻岩ニシテ紅色種ハ粗粒ナル黑雲母花崗質片麻岩ナリ、赤褐色頁岩層及石灰岩層(塞武利亞、オールドヴキシア紀)ハ口泉山脈及西石山々脈ノ大部ヲ構成ス

赤褐色頁岩層ハ主ニ頁岩ヨリ成リ淡青色砂岩ヲ挾有シテ片麻岩ヲ不整合ニ被覆ス、本層ハ北部支那ニ於テ塞武利亞紀ノ底部ニ位スル所謂饅頭層ニ該當スルモノナリ

石灰岩層ハ累層ノ上中部ト下部トニ於テ各岩質ヲ異ニス、下部ハ主ニ層理明カナル暗灰色或ハ灰色ノ石灰岩ヨリ成リ蟹岩狀石灰岩、鯛狀石灰岩及暗褐色頁岩ヲ挾有ス、上中部ハ層理不明ナル黑色石灰岩ヨリ成リ時ニ黃褐色ノ點紋ヲ有スルモノアリ、又石灰岩中ニハ三葉蟲ノ化石ヲ埋藏セリ、本層ハ赤褐色頁岩層ニ整合シ山西省南部ニ於ケル繫舟石灰岩ニ該當スルモノナリ

下部含炭層竝ニ黑色頁岩及砂岩層(上部石炭紀)ハ概シテ口泉山脈ト西石山々脈トノ間ニ介在スル丘陵地ノ大部ヲ構成シ、一部ハ十里河、鷺毛口間ニ於ケル口泉山脈ノ山峰ヲ構成セリ

下部含炭層ハ主ニ灰色砂岩及黑色頁岩ヨリ成リ處々ニ蟹岩ヲ挾有シ又其下部ニ薄キ石灰岩介在ス、石灰岩中ニハ海百合及紡錘蟲ノ化石ヲ埋藏シ炭層ニ近キ地層中ニハ植物化石ヲ埋藏スルコト多ク殊ニ砂岩中ニ鱗木ノ化石ヲ發見セリ、含炭層



ノ基底層ハ赤褐色ノ砂岩及頁岩ニシテ時ニ褐鐵鑛ノ團塊ヲ含有スルコトアリ、而シテ其下位ニ在ル寒武利亞「オールドヰ」紀ノ石灰岩層トノ間ハ不整合ナリ  
 黑色頁岩及砂岩層ハ主ニ頁岩及砂岩ノ互層ヨリ成リ下部ハ厚キ燧岩又ハ砂岩ニシテ下部含炭層ニ整合ス

下部含炭層竝ニ黑色頁岩及砂岩層ハ山西省南部ニ於ケル上部石炭紀含炭層ニ該當スルモノナリ

暗紅色頁岩及砂岩層(二疊三疊紀?)ハ本炭田ノ丘陵地ノ北部ニ於テ上部石炭紀層ノ北西側ニ沿ヒ十里河ノ雲崗、水神廟河ノ阿家梁、鷺毛口河ノ石門口、吳家河ノ黃家店ニ互リテ布衍セリ、本層ハ主ニ頁岩及砂岩ノ互層ヨリ成リ其上下部ニハ暗紅色砂岩ヲ挾有スル灰色砂岩發達ス、又其基底ニ遷移期ノ燧岩アリテ黑色頁岩及砂岩層ニ整合ス、而シテ本層ハ山西省南部ニ於ケル赤色層(Red Beds)ニ該當スルモノナリ

上部含炭層(珠羅紀)及赤色砂岩層(珠羅紀乃至珠羅紀以後)ハ本炭田ノ北部丘陵地ニ於テ暗紅色頁岩及砂岩層ノ北西側ニ沿ヒ十里河ノ姜家灣及舊高山村、吳家河ノ大

圪駝店及馬道頭ニ互リテ廣ク布衍セリ

上部含炭層ハ主ニ灰白色砂岩及暗灰色頁岩ヨリ成リ砂質頁岩ヲ挾有シ炭層ニ近キ地層中ニハ植物化石ヲ埋藏ス、而シテ其下位ニ在ル暗紅色頁岩及砂岩層ト其上位ニ在ル赤色砂岩層トノ間ハ共ニ整合ニシテ珠羅紀ニ屬スルカ如シ

赤色砂岩層ハ主ニ砂岩ヨリ成リ灰色頁岩及砂質頁岩ヲ挾有シ其中部ヨリ以下ニ炭質劣等ナル一炭層介在シ炭層ニ近キ地層中ニ植物化石ヲ埋藏ス、本層ハ恐ラク珠羅紀乃至珠羅紀以後ノ生成ニ係レルモノナラン

玄武岩ハ牛心山々脈及大同平原ノ黃花梁ヲ構成シ其頒布廣大ナリ、本岩ハ黑色ニシテ多孔質ナルヲ普通トシ稀ニ斑狀ヲ呈スルモノアリ

黃土ハ調査區域全般ヲ通シテ岩磐ヲ被覆シ其最モ厚キ部ニ於テハ百米餘ニ達シ屢薄キ砂礫層ヲ挾有シ又種々ナル形ヲナセル泥灰質團塊(Loess Kindern)ヲ包藏ス

冲積層ハ砂礫及泥土ヨリ成リ河岸ノ狹長ナル平地ヲ構成ス

本炭田ノ地質構造ヲ見ルニ片麻岩ハ一般ニ北東—南西ノ層向ヲ有シ急傾斜又ハ皺曲ヲナス、石灰岩層及赤褐色頁岩層ハ概シテ北三十度乃至四十五度東ノ層向ヲ



有シ口泉山脈ニ於テハ西北西又ハ北西三十五度乃至八十五度ノ急傾斜ヲナシ西石山々脈ニ於テハ東南東又ハ南東七八度ノ緩傾斜ヲナス、即チ寒武利亞、オールドヴ\*シア紀層ハ前記兩山脈間ニ介在スル丘陵地ノ基底ニ於テ北東ヨリ南西ニ互レル一ノ向斜構造ヲ形成ス、隨テ西石山々脈ヲ構成スル地層ハ北方ニ延ヒテ伏在シ恐ラク玄武岩ヨリ成レル牛心山々脈ノ基盤ヲナスカ如シ

本炭田ノ丘陵地ヲ構成スル赤色砂岩層、上部含炭層、暗紅色頁岩及砂岩層、黑色頁岩及砂岩層及下部含炭層ハ互ニ整合シテ累疊シ其下位ニ在ル石灰岩層トノ間ハ不整合ナリ、而シテ赤色砂岩層、上部含炭層及暗紅色頁岩及砂岩層ハ本炭田ノ丘陵地ノ北半部ヲ占メ黑色頁岩及砂岩層及下部含炭層ハ丘陵地全般ニ布衍セリ、是等ノ地層ハ概シテ北三十度乃至六十度東ニ走リ略寒武利亞、オールドヴ\*シア紀層ノ層向ト一致シ口泉山脈ノ北西側ニ於テハ西北西ヨリ北々西十度乃至二十五度西、石山々脈ノ南東側ニ於テハ東南東ヨリ南々東五六度ニ傾斜シ其中央帶ニ於テハ殆ント水平ニ累疊セリ

是ニ由リ之ヲ推スルニ寒武利亞、オールドヴ\*シア紀層ハ北東ヨリ南西ニ互レル一

ノ向斜構造ニヨリ長大ナル向斜帶ヲ形成シテ茲ニ上部石炭紀ヨリ二疊三疊紀、珠羅紀乃至珠羅紀以後ニ互リテ地層沈積シ而カモ本炭田ノ地盤ハ上部石炭紀ノ地層沈積以後徐々ニ南西ヨリ隆起シ始メタルカ如シ

### 第三章 炭 層

炭層ハ其數多キモ現ニ稼行セラル、ハ七層ニシテ之ヲ假ニ上位ノモノヨリ順次ニ第一層、第二層、第三層、第四層、第五層、第六層及第七層ト稱ス

第一層ハ珠羅紀乃至珠羅紀以後ノ赤色砂岩層中ニ、第二層、第三層及第四層ハ珠羅紀含炭層中ニ、第五層、第六層及第七層ハ上部石炭紀含炭層中ニ介在ス

第一層ハ厚サ三尺ニシテ上下兩盤共ニ頁岩ヨリ成リ炭質劣等ナル黒褐炭ニ屬ス、本炭層ハ現ニ交泥溝、楊樹灣、雀兒山、新葉子山及斗子窪ノ五炭礦ニ於テ稼行セラレ嘗テ「ウーカート」炭礦及高山城西門外炭礦ニ於テ稼行セラレタリ、本炭層ト珠羅紀含炭層トノ間隔ハ興隆溝炭礦附近ノ露出ニ就キテ之ヲ見ルニ約百米ナリ(第三圖及第四圖參照)



第二層ハ厚サ八尺乃至十四尺ニシテ上盤ハ砂質頁岩、下盤ハ頁岩ヨリ成リ炭層ノ中央ヨリ上部ニ五寸乃至一尺ノ砂岩ヲ挾有シ採炭部ハ七尺乃至十三尺ナリ、本炭層ハ珠羅紀ニ屬スル炭層中ニ於テ最モ厚ク現ニ大馬營澗、青楊灣、興隆溝、干溝、桃花溝等ノ諸炭礦ニ於テ盛ニ稼行セラル

第三層ハ厚サ三尺五寸ニシテ上下兩盤共ニ頁岩ヨリ成リ上盤ニ近ク薄キ夾ミヲ有スルヲ以テ平均三尺内外ヲ採炭ス、本炭層ハ園子溝、王家潭、胡家窩、窰溝等ノ諸炭礦ニ於テ稼行セラル

第四層ハ厚サ六尺五寸乃至七尺八寸ニシテ上下兩盤共ニ頁岩ヨリ成リ上盤ニ近ク薄キ夾ミ又ハ劣等炭ヲ有シ採炭部ハ四尺乃至六尺ナリ、本炭層ハ樹兒灣、園子溝、老四溝、胡家窩、馬營窪等ノ諸炭礦ニ於テ稼行セラル

珠羅紀含炭層中ノ稼行炭層相互ノ間隔ハ大馬營澗、園子溝及窰溝ノ三炭礦ニ就キテ之ヲ見ルニ第二層ト第三層トハ約二百十尺、第三層ト第四層トハ約二十五尺ナリ(第四圖及第五圖參照)

第五層ハ厚サ二尺ニシテ上下兩盤共ニ頁岩ヨリ成ル、本炭層ハ元甫子炭礦ニ於テ

ノミ稼行セラル

第六層ハ厚サ十尺内外ニシテ上下兩盤共ニ頁岩ヨリ成リ二三枚ノ五寸乃至二尺ノ頁岩ヲ挾有シ又上盤ニ近キ部ハ劣等炭トナルコトアリ、從テ採炭部ハ四尺乃至七尺五寸ナリ、而シテ地層ノ變動著シキ小磨溝炭礦及吾道溝炭礦ノ附近ニ於テハ炭質半無煙炭ニ化セリ、本炭層ハ上部石炭紀ニ屬スル炭層中最モ重要ナルモノニシテ現ニ大溝、小磨溝、吾道溝、四峰山、劉家窰子、窩々會、小峰山、亂道溝、馬家窪等ノ諸炭礦ニ於テ稼行セラル

第七層ハ厚サ六尺乃至八尺ニシテ上下兩盤共ニ頁岩ヨリ成リ一二枚ノ五寸ノ頁岩ヲ挾有シ又上盤ニ近キ部ハ劣等炭トナルコトアリ、從テ採炭部ハ二尺五寸乃至五尺ナリ、本炭層ハ現ニ斗窰溝、熱窰溝、劉家窰子、全五營ニ於テ稼行セラル

上部石炭紀含炭層中ノ稼行炭層相互ノ間隔ハ吾道溝、鐵匠爐溝及小峰山ノ三炭礦ニ於ケル露出ニ就キテ之ヲ見ルニ第五層ト第六層トハ約十一尺、第六層ト第七層トハ約六十五尺ナリ(第六圖及第七圖參照)

珠羅紀含炭層ト上部石炭紀含炭層トノ間隔ハ五六百米ナリ(第二圖參照)



### 第四章 炭質並ニ炭塊ノ種類

炭質 本炭田産石炭ハ一般ニ質堅硬ニシテ立方狀、板狀又ハ介殼狀ニ裂碎スルノ性ヲ有シ大ナル塊炭ヲ採取シ得ヘシ

珠羅紀乃至珠羅紀以後ノ地層中ニ介在スル石炭即チ第一層ハ光澤ニ乏シキ黒褐色ヲ呈シテ普通ノ黒褐炭ニ屬シ粘結セズ、又硫化鐵ノ微粒ヲ含有スルコト多ク貯炭久シキニ互レハ其酸化ニヨリ褐色ニ汚染セラレ

珠羅紀ノ地層中ニ介在スル石炭即チ第二層、第三層、第三層及第四層ハ光澤強キ漆黒色ヲ呈シテ良質ノ瀝青炭ニ屬シ有煙ナリ、第二層ハ粘結セサルモ稀ニ粘結性ニシテ骸炭ニ燒製シ得ルモノアリ、第三層ハ粘結セサルモ時ニ粘結性ナルモノアリ、第四層ハ粘結性ナリ

上部石炭紀ノ地層中ニ介在スル石炭即チ第五層、第六層及第七層ハ稍光澤アル黒色ノ瀝青炭ニシテ時ニ半無煙炭ニ屬スルモノアリ、一般ニ煙少ナシ、是等ハ其ニ粘結スルモノ多ク時ニ骸炭ニ燒製スルコトアリ、第七層ハ屢扁桃狀塊ヲナセル硫化

鐵ヲ介有ス、俗ニ之ヲ銅金ト稱ス

本炭田産石炭ニ就キ試験セシ結果ハ左ノ如シ(百分中)

產地	水分	揮發物	固定炭素	骸炭ノ質	灰	灰ノ色	硫黄	發熱量 (カロリー)	比重
聚寶溝 第六層	三・〇六	二二・八	四二・九	粘結ス	三・八三	淡紫	五・四四	四七三〇	一・四〇五
斗審溝 第七層	三・三三	二八・七四	五八・〇七	同	九・八七	黝白	〇・四〇	六七二〇	一・三四六
黄土金 第六層	三・二七	二五・〇六	六〇・一五	粘結ス	一・五三	淡黝	〇・六四	七三六〇	一・二七五
大溝 第六層	二・六七	三三・四〇	六〇・四五	同	三・四八	同	〇・四七	七三六〇	一・二九五
熱審溝 第七層	三・〇五	三二・七四	六三・一九	同	三・〇三	同	〇・四九	七二五〇	一・二八九
小磨溝 第六層	二・一〇	一一・三五	六九・一六	粘結ス	一七・三三	褐	〇・四六	—	一・四六一
同 第六層	二・三九	二四・六六	五〇・七三	粘結ス	二二・三三	淡紫	〇・五八	六六〇〇	一・三四九
鐵匠爐溝 第六層	三・〇四	一〇・九三	七三・七	粘結ス	二二・七六	黝	〇・九八	—	一・四五四



產地	水分	揮發物	固定炭素	該炭ノ質	灰	灰ノ色	硫黄	發熱量 (カロリー)	比重
吾道溝 第六層	二・八八	二六・五四	五二・八〇	粘結	八・七六	黝	〇・三四	五五〇〇	一・四八一
東溝 第六層	三・五〇	三五・五四	五〇・五三	同	一〇・四三	紫黝	〇・六六	六七二〇	一・三四六
水溝 同	三・一〇	三四・〇六	五四・九九	同	七・八五	黝	〇・九〇	六九三〇	一・三三一
四峯山 同	三・六〇	三三・四一	四六・三三	粘結	一七・七七	黝	〇・五八	五六二〇	一・四三六
亂道溝 同	四・一四	三五・一六	五〇・七五	同	九・九七	同	一・四四	六六〇〇	一・三四三
爐子溝 同	二・八七	二四・一七	五七・六八	粘結	一五・二六	同	〇・四四	五九四〇	一・四七一
劉家窰子 第六層	二・五七	二二・四九	四六・三三	同	二九・八二	淡黝	〇・九九	四四〇〇	一・六六五
同 第七層	二・七二	三五・四六	四三・一〇	粘結	一八・七三	紫黝	四・一八	五五〇〇	一・五五三
全五營 第六層	三・八七	三六・四二	五四・一〇	同	五・六一	黝	〇・八八	六七七五	一・三三〇
同 第七層	四・三六	三九・四七	五一・三三	同	四・九四	同	〇・六一	六七七八	一・三三一

產地	水分	揮發物	固定炭素	該炭ノ質	灰	灰ノ色	硫黄	發熱量 (カロリー)	比重
高々會 第六層	三・七八	二〇・〇六	七二・七七	粘結	四・五九	同	〇・二九	六八七五	一・三六四
小峯山 第六層	三・四二	二五・四一	六〇・七四	粘結	一〇・四三	同	一・〇〇	六三三〇	一・三二二
馬家窰 同	四・二〇	三六・四八	五一・七九	粘結	七・五三	同	一・四三	六九三〇	一・三四七
元甫子 第五層	三・六三	三一・九六	五四・九〇	粘結	二〇・一八	同	一・三八	六七二〇	一・二七一
馬營窰 第四層	四・六七	三三・四七	五九・〇一	同	二・八五	濃褐	〇・五五	七四四五	一・三〇四
窰溝 第三層	四・〇一	三四・四八	六〇・三三	同	一・四九	淡褐	〇・五四	七三三〇	一・三二〇
胡家窩 第四層	三・四八	三六・八九	五七・九八	同	一・五五	褐	〇・二七	七三三五	一・三二〇
老四溝 第四層	三・五七	三四・五三	六〇・四三	同	一・四八	淡褐	〇・三八	七三三〇	一・二九九
園子溝 第三層	三・七八	二二・四七	六九・八〇	粘結	四・五五	黝白	〇・一九	七五三〇	一・三二六
樹兒灣 第四層	三・七四	三三・八八	六〇・九〇	粘結	一・四八	黝	〇・五〇	七二五〇	一・三二九
大馬營洞 第二層	二・九九	二五・四六	六八・四四	粘結	三・二一	同	〇・四〇	七二五〇	一・三四八



產地	水分	揮發物	固定炭素	骸炭ノ質	灰	灰ノ色	硫黄	發熱量 (カロリー)	比重
王家潭 第三層	四・八	三・三	六・四七	セ粘 ス結	三・二	黝	〇・三	六九〇	一・三三
紅石崖 第二層	二・八六	三・一八	五・〇一	ス粘 結	七・五	同	〇・六	六八〇	一・三二
清楊灣 同	三・九二	三・〇一	六・八九	セ粘 ス結	一・一八	同	〇・二	七五〇	一・二八六
手家溝 同	七・三六	三・〇五	五・四六	ス粘 結	三・二	同	〇・七	六六〇	一・二九九
青家山 同	七・二	三・四二	五・四七	セ粘 ス結	四・〇	同	〇・三	六六〇	一・三〇三
張家風 同	六・八三	三・一三	五・五九	同	二・七	褐	〇・四八	六七〇	一・三六二
大石頭山 同	九・九八	二・四三	六・三	同	三・五	黝	〇・二	六四九	一・三七一
土溝長 同	八・八六	三・五九	五・七	同	二・六	同	〇・五	六〇〇	一・三〇四
高車灣 同	一〇・〇〇	二・五〇六	六・一七	同	三・七	褐	〇・五	六四〇	一・二六五
董家嘴 同	八・四五	二・四四	六・三	同	三・四	黝	〇・二	六三八	一・二七一

興隆溝 同	九・五三	二・九六	五・〇一	同	二・九	同	〇・二	六八〇	一・三三七
千溝 同	五・九五	三・一六	五・三	ス粘 結	三・四	同	〇・六	六八〇	一・三三
桃花溝 同	六・六一	二・〇八	六・三	セ粘 ス結	四・〇	同	〇・二	六八〇	一・三七三
乳家嘴 同	六・七四	二・四三	五・三	同	三・三	赤褐	〇・六	六七〇	一・二七九
雀兒山 第一層	七・六三	二・一八	六・〇〇	同	三・九	濃褐	〇・七	六四九	一・三四七
楊樹灣 同	七・五六	二・〇三	六・一六	同	一・七	褐	一・三	六七〇	一・三三八
交泥溝 同	七・三九	二・八七	四・〇	同	二・八	黝白	〇・九	六六〇	一・四八二

炭塊ノ種類 採掘セル石炭ハ大塊炭、碎炭及炭ノ三種ニ區別ス、其割合ハ大塊炭四割乃至六割、碎炭二割五分乃至一割、粉炭三五分乃至三割ナリ  
 大塊炭ハ十斤(六寸立方)乃至百斤(長サ二尺、幅尺、厚サ一尺)ノ重量ヲ有シ、普通五十斤(一尺立方)内外ナリ、其形ハ立方體若クハ之近ク、本炭田ノ諸炭礦ニ於ケル主ナル商用炭ナリ



碎炭ハ一斤(三寸立方)乃至十斤ノ重量ヲ有シ普通六斤(五寸立方)内外ノ塊炭ニシテ一般ニ立方體ヲナスモノ少ナシ、碎炭ハ炭礦附近ノ村落ニ搬出セラレ大塊炭ニ比シ炭價低廉ナリ、碎炭ハ又煉炭(骸炭)ノ燒製ニ供セラレ碎炭百斤ヨリ煉炭六七十斤ヲ得ト云フ

粉炭ハ碎炭ヨリ以下ノ小塊ニシテ二寸立方ノ炭塊ヲ多量ニ含有スルモ全ク之ヲ坑内ニ遺棄シテ顧ミス

是等諸炭塊ノ價格ハ處ニヨリ差異アルモ干溝炭礦ニ於テ大塊炭ハ山元渡シ百斤十二銅錢ニシテ此處ヨリ百二十支那里ヲ隔ツル豐鎮ニ搬出セラレ百斤九十銅錢ナリ、碎炭ハ山元渡シ百斤五銅錢ナリ、煉炭ハ山元渡シ百斤二十銅錢ニシテ豐鎮ニ搬出セラレ百十銅錢ナリ

### 第五章 炭 量

本炭田ニ於テ上部石炭紀ヨリ二疊三疊紀、珠羅紀乃至珠羅紀以後ニ互レル各地層ハ互ニ整合シテ累重シ珠羅紀含炭層ト上部石炭紀含炭層トノ間隔ハ五六百米ナ

リ(第一圖參照)而シテ是等ノ地層ニヨリ構成セラル、丘陵地ハ海拔千三百米内外ナルヲ以テ假リニ海拔千四十四米ノ大同縣ヲ通スル水平面ヲ本炭田ニ於ケル排水準面トセハ最モ深ク地下ニ伏在セル炭層ト雖モ該排水準面下約四百米以内ニ存在スヘキナリ

茲ニ珠羅紀乃至珠羅紀以後ニ屬スル第一層ノ厚サヲ三尺、珠羅紀ニ屬スル第二層、第三層及第四層ノ厚サヲ合計十八尺、上部石炭紀ニ屬スル第五層第六層及第七層ノ厚サヲ合計十一尺トシ石炭六尺立方ノ重量ヲ八噸即チ比重一・三トシテ炭量ヲ概算セルニ左ノ結果ヲ得タリ、但シ炭層ノ厚サハ採炭部ノ厚サヲ示シ炭層賦存面積ハ舊採掘區域ヲ除外ス、又炭層ノ傾斜角ハ一般ニ緩ナルヲ以テ之ヲ考慮セス

炭層ノ厚サ	炭層賦存面積(平方基米)	炭量(噸)
第一層 (I) 三 尺	二〇〇・〇〇〇	二三四、〇〇〇、〇〇〇
第二層 (II) 十 尺	六一九・六九〇	四、四三〇、七八三、五〇〇
第三層 (III) 三 尺		
第四層 (IV) 五 尺		
合計 十八 尺		



炭層	厚サ	炭層賦存面積(平方基米)	炭量(噸)
總炭量			一一、七八六、四一九、四五〇
實收炭量(六割)			七、〇七一、八五一、六七〇

本炭田ニ於ケル炭層賦存平面積ハ邦里十里餘平方ニ相當シ其埋藏總炭量ハ百十七億八千六百餘萬噸ナリ假リニ其四割ヲ採炭上ノ損耗ト看做スモ尙七十億七千百餘萬噸ヲ採炭シ得ヘキナリ

### 第六章 炭礦ノ沿革及現狀 (第二版及第三版參照)

本炭田ハ今ヨリ五十餘年前即チ同治年間ノ開發ニ係リ光緒二十年(今ヨリ二十五年前)頃ヨリ漸次各地ニ開坑スルモノ多ク宣統元年(今ヨリ十年前)ヨリ民國年間ニ入リテハ頓ニ著シク目下大同、左雲、懷仁、朔、平魯及右玉ノ五縣管内ニ互リテ總計七

十七ノ炭礦ヲ算スルニ至リ少ナクトモ從業坑夫千二百四十三人ニシテ日産額ハ四百十三噸(七十萬三千六百斤)年産額ハ十五萬五千八百八十噸ナリ左ニ各縣別炭礦數、日産額、坑夫員數等ヲ表示シ本炭田ニ於ケル石炭鑛業ノ一斑ヲ窺フノ資料ト

縣名	炭礦數	稼行炭礦	休業炭礦數	踏査シタル炭礦數	踏査シタル		炭礦
					稼行中	休業中	
左雲縣	二四	二二	三	一六	一三	三	二五〇、〇〇〇
大同縣	一八	一三	五	一四	一二	二	二九六、〇〇〇
懷仁縣	一七	一二	五	一五	一一	四	六九、五〇〇
朔縣	一〇	九	一	七	六	一	七九、五〇〇
右玉縣	七	七	一	一	二	一	八、六〇〇
平魯縣	一	一	一	一	一	一	一
合計	七七	六三	一四	五四	四四	一〇	七〇三、六〇〇 (四一三噸)
							一、二四三



巡回當時ニ於ケル鑛業會社ハ九箇ニシテ保晋公司、裕晋鑛務公司、保華公司、義昌公司、同發公司、晋華煤鑛公司、廣興公司、集成煤鑛公司及晋晉鑛務公司即チ是ナリ  
 保晋公司ハ大同縣城ニアリ、總辦ハ趙星西ニシテ懷仁縣四老溝炭鑛、同縣王家潭炭鑛及左雲縣青家山炭鑛ノ一部ヲ經營ス  
 裕晋鑛務公司ハ大同縣城ニアリテ閻子安(山西督軍ノ叔父)及晋北鎮守使張樹幟ノ合資ヨリ成リ左雲縣青楊灣炭鑛ヲ經營ス  
 保華公司ハ大同縣城ニアリ、總辦ハ何宗ニシテ大同縣馬營窪炭鑛ヲ經營ス  
 義昌公司ハ左雲縣上張家風ニアリ、總辦ハ晋北鎮守使張樹幟ニシテ左雲縣張風炭鑛ノ一部ヲ經營ス  
 同發公司ハ左雲縣上張家風ニアリテ張鎮守使及孔師長ノ合資ヨリ成リ左雲縣張家風炭鑛ノ一部ヲ經營ス  
 晋華煤鑛公司ハ大同縣雲崗堡ノ石頭村ニアリテ王省三及李絳侯ノ合資ヨリ成リ石頭村炭鑛ヲ經營ス  
 廣興公司ハ大同縣干溝ニアリ、總辦ハ汪潤甫ニシテ干溝炭鑛ヲ經營ス

集成煤鑛公司ハ大同縣窰洞村ニアリ、總辦ハ張天甲ニシテ大同縣桃花溝炭鑛ヲ經營ス

普晋鑛務公司ハ天鎮縣水磨口ニアリ、總辦ハ徐一清ナルモ實權ハ閻子安(山西督軍ノ叔父)ノ手ニ歸セルモノ、如ク協理ニハ胡萬(早稻田大學理工科出身)及楊天章(仙臺工學專門部出身)アリテ水磨口鉛鑛山ヲ經營ス

本炭田ニ於ケル諸炭鑛ノ現狀並ニ沿革ヲ記載スルニ際シ各炭鑛ヲ其稼行炭層ノ地質時代ニヨリ(一)上部石炭紀、(二)珠羅紀、(三)珠羅紀乃至珠羅紀以後ニ屬スルモノ、三ニ區分シ左表ノ順ニヨリ記述スヘシ

- (1) 石頭村炭鑛
- (2) 聚寶溝炭鑛
- (3) 斗窰溝炭鑛
- (4) 黃土金炭鑛
- (5) 大溝炭鑛
- (6) 熱窰溝炭鑛
- (7) 二道溝炭鑛
- (8) 四峪溝炭鑛
- (9) 陳家峪炭鑛
- (10) 小磨溝炭鑛
- (11) 鐵匠爐溝炭鑛
- (12) 庄瓦溝炭鑛
- (13) 吾道溝炭鑛
- (14) 白頭溝炭鑛
- (15) 東溝炭鑛
- (16) 水溝炭鑛
- (17) 四峰山炭鑛
- (18) 五成山炭鑛
- (19) 魏家溝炭鑛
- (20) 東庄炭鑛



- (21) 水頭炭礦
- (22) 黃老溝炭礦
- (23) 前山子炭礦
- (24) 界山炭礦
- (25) 亂道溝炭礦
- (26) 碾溝炭礦
- (27) 爐子溝炭礦
- (28) 安吉嶺炭礦
- (29) 劉家窰子炭礦
- (30) 全五營炭礦
- (31) 滋裕炭礦
- (32) 桃八窪炭礦
- (33) 窩々會炭礦
- (34) 小峰山炭礦
- (35) 馬家窪炭礦
- (36) 范家屯炭礦
- (37) 元甫子炭礦
- (38) 北溝炭礦
- (39) 姜家灣炭礦
- (40) 馬營窪炭礦
- (41) 陰堂溝炭礦
- (42) 羊家見炭礦
- (43) 窰溝炭礦
- (44) 四老溝炭礦
- (45) 胡家窩炭礦
- (46) 老四溝炭礦
- (47) 園子溝炭礦
- (48) 樹兒灣炭礦
- (49) 小馬營潤炭礦
- (50) 大馬營潤炭礦
- (51) 王家潭炭礦
- (52) 紅石崖炭礦
- (53) 青楊灣炭礦
- (54) 手家溝炭礦
- (55) 青家山炭礦
- (56) 張家風炭礦
- (57) 大石頭山炭礦
- (58) 土溝長炭礦
- (59) 高車灣炭礦
- (60) 董家嘴炭礦
- (61) 大里倉炭礦
- (62) 刀落寺炭礦
- (63) 黑豆嘴炭礦
- (64) 興隆溝炭礦
- (65) 黃林溝炭礦
- (66) 干溝炭礦
- (67) 桃花溝炭礦
- (68) 新周窰炭礦
- (69) 乳家嘴炭礦

(二) 珠羅紀ニ屬スル炭礦

(70) 堡子灣炭礦

(三) 珠羅紀乃至珠羅紀以後ニ屬スル炭礦

- (71) 雀兒山炭礦
- (72) 斗子窪炭礦
- (73) 新葉子山炭礦
- (74) 楊樹灣炭礦
- (75) 高山城西門外炭礦
- (76) 交泥溝炭礦
- (77) 「ウーカート」炭礦

(甲) 上部石炭紀ニ屬スル炭礦

(1) 石頭村炭礦(大同縣) ハ晋華煤礦公司(總辦ハ王省三及李絳侯)ノ經營ニ依リ鑛區面積ハ三支那里平方アリ、民國六年七月始メテ斜坑ヲ南六十度東ノ方向ニ掘鑿シ十七尺ニシテ厚サ六寸ノ炭層ニ會シ更ニ二十尺ヲ掘進セシニ出水ニ會セリ、巡回當時(民國七年八月)英人ノ機械職工一名上海ヨリ來リテ排水用蒸氣汽罐ヲ据付ケ又軌道ヲ斜坑ニ布設シツ、アリ、本炭礦ニ於テ著目セルハ聚寶溝炭礦ノ稼行炭層タル第六層ナルカ如シ

(2) 聚寶溝炭礦(大同縣) ハ光緒七八年ノ交王子昌始メテ之ヲ開坑セシモ收支償ハスシテ休業セリ、民國元年翟二其之ヲ繼承シテ再開ニ著手シ深サ二百三十尺ノ斜坑ヲ開鑿シテ著炭シ、坑口ヨリ西方ニ掘進シテ一時盛ニ操業セシモ目下坑道ノ延



長五千餘尺ニ達シ出水多ク操業困難トナリ休止セントシツ、アリ、稼行炭層ハ第六層ニシテ四尺五寸ヲ採炭ス、坑夫ハ六人ニシテ日産三千五百斤ヲ出炭ス、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭二十二銅錢ニシテ販路ハ大同縣ナリ

(3) 斗窰溝炭礦(大同縣) ハ宣統二年頃之ヲ開坑セシモノアリシカ收支償ハスシテ休業セリ、民國二年ニ至リ政府之ヲ繼承シテ官營トナセシカ探鑛竝ニ採掘法其宜シキヲ得ス、昔年ナラスシテ之ヲ廢棄セリ、民國四年大同縣ノ人郭福新ニ斜坑ヲ開鑿シ深サ百六十尺ニシテ著炭ス、目下坑夫四十人ニシテ日産二萬四千斤ナリ、現在ノ採炭區域ハ坑口ヨリ北方百五十尺ナリ、稼行炭層ハ第七層ニシテ三尺五寸ヲ採炭ス、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭二十二銅錢ニシテ販路ハ大同縣ナリ

(4) 黃土金(又ハ黃土灣炭礦(大同縣)) ハ現鑛主施某民國三年之ヲ開坑セシニ始マリ深サ百四十尺ノ斜坑アリテ採炭區域ハ坑口ヨリ北方七百五十尺ナリ、稼行炭層ハ第六層ニシテ三尺ヲ採炭ス、坑夫ハ七人ニシテ日産三千斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十九銅錢ニシテ販路ハ雲崗、小粘、興旺庄等ナリ

(5) 大溝炭礦(大同縣) ハ光緒元年ノ開坑ニ係リ周萬銀及楊某ノ共同經營ニ屬シ鑛區面積五百餘畝アリ、現ニ深サ二百十尺乃至二百十五尺ノ三斜坑ニヨリテ稼行ス、其採炭區域ハ坑口ヨリ北方五千四百尺、北東方九千尺、北西方百二十尺ナリ、稼行炭層ハ第六層ニシテ三尺五寸ヲ採炭ス、坑夫ハ二百餘人ニシテ日産十萬斤餘ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭二十五銅錢ニシテ販路ハ平旺停車場及大同縣ナリ

(6) 熱窰溝炭礦(大同縣) ハ同治年間ノ開發ニ係リ現鑛主ハ大同縣ノ人周萬銀ナリ、本炭礦ハ從來三斜坑ニテ稼行セシモ深ク掘進スルニ從ヒ出水多ク採業困難トナリ、民國四年ニ至リ全ク之ヲ廢棄シ新ニ深サ二百十尺ノ斜坑ヲ開鑿シ目下坑夫三十五人ニシテ日産二萬斤ナリ、現在ノ採炭區域ハ坑口ヨリ東方三千六百尺ナリ、稼行炭層ハ第七層ニシテ二尺八寸ヲ採炭ス、附帶事業トシテ煉炭ヲ燒製ス、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭三十錢ニシテ販路ハ平旺停車場及大同縣ナリ

(7) 二道溝炭礦(大同縣) ハ民國七年三月始メテ開坑シ鑛主ハ鄭山ナリ、坑ハ北三十度西ニ向ヒ水平ニ五十五尺開鑿シ此處ヨリ四十二三尺掘下シテ著炭シ炭層ニ沿ヒテ掘進スルコト三十尺ニ及ヘリ、稼行炭層ハ第七層ニシテ三尺ヲ採炭ス、坑夫ハ三人ニシテ日産千五百斤ナリ、炭質脆弱ニシテ碎炭ノミナリ、炭價ハ山元渡シ百斤



十五銅錢ニシテ販路ハ口泉鎮ナリ

(8) 四峪溝炭礦及(9) 陳家峪炭礦(懷仁縣) ハ鷲毛口ノ北五支那里、玉林ノ西六支那里ニ位シ涼帽山ノ東麓ニアリ共ニ休業中ニ屬シ舊坑數多アリ、陳家峪炭礦ハ周某ノ所有ナリ

茲ニハ第六層及第七層ノ露頭竝行シテ現出シ北東ヨリ南西ニ走リ北西二十五度ノ傾斜ヲナス

第六層ハ厚サ六尺ナルモ中間ニ厚サ一尺ノ頁岩ヲ挾有セルヲ以テ平均五尺ヲ採炭シ得ヘク、第七層ハ厚サ五尺ナルモ中間ニ厚サ五寸ノ頁岩ヲ挾有シ且上部炭層ハ厚サ一尺五寸ノ劣等炭ナルヲ以テ平均三尺ヲ採炭シ得ヘシ

(10) 小磨溝炭礦(懷仁縣) ハ民國五年現鑛主汪用九之ヲ買收シタルモノニシテ其沿革不明ナリ、鑛區面積ハ一平方支那里ナリ、茲ニハ舊坑四箇、稼行坑一箇アリ、稼行坑ハ斜坑ニシテ深サ百四十尺ニテ著炭シ北三十度西ニ向テ掘進スルコト六百尺ニ及ヘリ、稼行炭層ハ第六層ニ屬シ厚サ十尺餘ナルモ中間ニ厚サ三尺ノ頁岩ヲ挾有シ上下二炭層ニ分ル、上部炭層ハ無煙炭ニシテ三尺ヲ、下部炭層ハ有煙炭ニシテ四

尺ヲ採炭ス、坑夫ハ四人ニシテ日産二千斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤無煙炭九銅錢、有煙炭八銅錢ニシテ販路ハ懷仁縣及應縣ナリ

(11) 鐵匠爐溝炭礦(懷仁縣) ハ民國四年始メテ開坑シ鑛主ハ鷲毛口村ノ楊某外二名ナリ、坑ハ一ニシテ第六層ノ露頭ヨリ北西ニ三百尺掘進セル水平坑道ナリ、炭層ハ厚サ七尺二寸ニシテ中間ニ厚サ一尺ノ頁岩ヲ挾有シ上下二炭層ニ分ル、上部炭層ハ無煙炭ニシテ三尺ヲ、下部炭層ハ有煙炭ニシテ二尺六寸ヲ採炭ス、坑夫ハ十人ニシテ日産五千斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤無煙炭、有煙炭共ニ十銅錢ニシテ販路ハ鷲毛口及懷仁縣ナリ

(12) 庄瓦溝炭礦(懷仁縣) ハ民國元年ノ開坑ニ係リ鑛主ハ懷仁縣ノ李稟英ナリ、稼行炭層ハ第六層ニシテ其露頭ハ鐵匠爐溝炭礦ノモノニ連續シテ現出ス、坑ハ深サ十七尺ノ斜坑ナリ、坑道ハ南六十度西ニ向ヒ掘進スルコト千五百尺ニ達シ炭層ハ五尺ヲ採炭ス、坑夫ハ四人ニシテ日産千八百斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤六銅錢ニシテ販路ハ鷲毛口及懷仁縣ナリ

(13) 吾通溝炭礦(懷仁縣) ハ懷仁縣吾道村ノ共有鑛區ニ屬シ宣統元年頃ノ開坑ニ係



リ舊坑數多アルモ現ニ稼行セルハ僅ニ一坑ナリ、茲ニハ第五層、第六層及第七層ノ露頭竝行シテ北東ヨリ南西ニ走リ含炭層ハ皺曲シテ二背斜及一向斜構造ヲ成シ北西方ニ三十度ノ傾斜ヲナス、稼行炭層ハ第六層及第七層ナリ、第六層ハ厚サ十尺乃至八尺ナルモ中間ニ厚サ二尺乃至三尺ノ頁岩ヲ挾有セルヲ以テ平均五尺ヲ採炭シ得ヘク、第七層ハ厚サ六尺ナルモ中間ニ厚サ五寸ノ頁岩ヲ挾有シ且上部炭層ハ厚サ二尺五寸ノ劣等炭ナルヲ以テ平均三尺ヲ採炭シ得ルノミ

本炭礦ノ稼行坑道ハ第六層ノ露頭ヨリ北西ニ掘進セルモノニシテ其延長百三十尺ニ達ス、第七層ノ露頭ヨリ北西ニ掘進セル坑道ハ吾道村民ノ隨時來リテ採掘スルニ任スト云フ、坑夫ハ三人ニシテ日産千五百斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤六銅錢乃至七銅錢ニシテ販路ハ吾道村及懷仁縣ナリ

(14) 白頭溝炭礦(懷仁縣) ハ磨道河ノ西二十支那里、小裕口ノ北西三支那里、路家莊ノ北十三支那里ニ位シ、鑛主ハ小裕口ノ果某ニシテ目下稼行中ナリ、採掘セル石炭ハ大塊炭ニシテ販路ハ磨道河、薛家莊及路家莊ナリ(踏查セス)

(15) 東溝炭礦(左雲縣) ハ民國四年鑛主唐祖堯始メテ斜坑ヲ開鑿シ深サ百四十尺ニ

シテ第六層ニ著炭シ馬三頭ヲ使役シテ排水シツ、南五十度西ニ向ヒ掘進スルコト千五百尺ニ及ヘリ、稼行炭層ハ平均三尺ヲ採炭シ得、坑夫ハ六人ニシテ日産三千斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十銅錢ニシテ販路ハ第三作及懷仁縣ナリ

(16) 水溝炭礦(左雲縣) ハ民國五年五月鑛主谷逢盛始メテ斜坑ヲ開鑿シ深サ二百八十尺ニシテ第六層ニ著炭シ北十度東ニ向ヒ掘進スルコト二百四十尺ニ及ヘリ、目下坑内稍出水セルヲ以テ人背ニヨリテ之ヲ坑外ニ搬出ス、稼行炭層ハ六尺ヲ採炭シ坑夫ハ十人ニシテ日産五千斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十銅錢ニシテ販路ハ第三作、懷仁縣及應縣ナリ

(17) 四峰山炭礦(左雲縣) ハ吳家窰附近ノ炭礦中最初ニ發見セラレ從テ舊坑多キモ現在ノ稼行坑ハ民國四年鑛主李啓成ノ開鑿ニ係リ深サ二百五十七尺ニシテ著炭シ南三十度西ニ向ヒ掘進スルコト二千尺ニ及ヘリ、稼行炭層ハ第六層ニシテ五尺ヲ採炭ス、坑夫ハ二十人ニシテ日産一萬二千斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十銅錢ニシテ販路ハ第三作、山陰縣及應縣ナリ

(18) 五成山炭礦(左雲縣) ハ四峰山炭礦ノ南西十五支那里、外窰山ノ西南西十六支那



里ニ位シ目下稼行中ナリ(踏査セス)

(19) 魏家溝炭礦(左雲縣) ハ四峰山炭礦ノ南西十八支那里、外窰山ノ西南西十九支那里、五成山炭礦ノ西三支那里ニ位シ目下稼行中ナリ(踏査セス)

(20) 東庄炭礦(21) 水頭炭礦(22) 黃老溝炭礦(23) 前山子炭礦 ハ總テ右玉縣ニ隸屬シ舊岱岳附近ノ炭礦トシテ知ラル、採掘セル石炭ハ驢及騾ニヨリテ舊岱岳及山陰縣ニ搬

出セラレ就中水頭炭礦及黃老溝炭礦産ノモノ多シ、是等ノ運炭道路中車行シ得ルハ舊岱岳ヨリ甘庄ヲ經テ鴛鴦會ニ至ル約三十五支那里ナリトス(踏査セス)

東庄炭礦ハ鴛鴦會ノ北二十八支那里、舊岱岳ノ北々西六十三支那里ニ位ス

水頭炭礦ハ鴛鴦會ノ北西三十支那里、舊岱岳ノ北西六十五支那里ニ位ス

黃老溝炭礦ハ鴛鴦會ノ西三十五支那里、舊岱岳ノ北西七十五支那里ニ位ス

前山子炭礦ハ鴛鴦會ノ西四十支那里、舊岱岳ノ北西八十支那里ニ位ス

(24) 界山炭礦(平魯縣) ハ亂道溝炭礦ノ北東二十支那里、平魯縣ノ東南東九十三支那里、三里庄ノ東九十支那里ニ位シ目下稼行中ナリ(踏査セス)

(25) 亂道溝炭礦(朔縣) トハ亂道溝ニ於ケル四炭礦即チ胡家窰、康家窰、回家窰及唐家



窰ノ總稱ナリトス

本炭礦ニ於テ稼行セルハ第六層及第七層ノ二炭層ニシテ其間隔ハ四十五尺ナリトス

第六層ハ厚サ八尺内外ナルモ採掘スル部分ハ六尺ナリ、然レトモ尙中間ニ約二尺ノ夾ミアルヲ以テ石炭部ハ厚サ平均四尺ナリトス、第七層ハ厚サ五尺ナルモ一尺ノ夾ミト二尺ノ劣等炭アリテ平均二尺ヲ採炭ス、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭六銅錢ニシテ販路ハ平魯縣、三里莊、大干庄及井坪堡ナリ

胡家窰炭礦ハ宣統元年ノ開坑ニ係リ鑛主ハ賈伍李ニシテ第六層及第七層ヲ稼行ス、斜坑ハ深サ九十八尺ニシテ第六層ニ著炭シ該炭層ニ沿ヒテ北三十度東ニ八百尺ノ水平坑道ヲ掘鑿シ更ニ其末端ヨリ深サ四十五尺ヲ掘下シテ第七層ニ著炭シ該炭層ニ沿ヒテ北東ニ百尺ノ水平坑道ヲ掘進セリ、坑夫ハ二人ニシテ日産千斤ナリ

康家窰炭礦ハ光緒年間ノ開發ニ係リ鑛主ハ唐立ニシテ第六層ヲ稼行ス、斜坑ハ深サ二百十尺ニシテ是ヨリ北七十度西ニ向ヒ四千尺掘進セリ、坑夫ハ十五人ニシテ



日産九千斤ナリ

回家窰炭礦ハ宣統三年ノ開坑ニ係リ鑛主ハ郭某ニシテ第六層ヲ稼行ス、斜坑ハ深サ百四十尺ニシテ是ヨリ西方ニ向ヒ六百尺掘進セリ、坑夫ハ三人ニシテ日産千八百斤ナリ

唐家窰炭礦ハ光緒年間ノ開發ニ係リ鑛主ハ王某ニシテ第六層ヲ稼行ス、斜坑ハ深サ三百五十尺ニシテ坑底ヨリ北方ニ向ヒ三千餘尺ヲ掘進セリ、坑夫ハ三人ニシテ日産千五百斤ナリ

(26) 碾溝炭礦(朔縣) ハ亂道溝炭礦ノ南々西三十支那里、石湖ノ南西十五支那里、朔縣ノ北々東五十支那里、井坪堡ノ東百支那里ニ位シ目下稼行中ナリ(踏査セス)

(27) 爐子溝炭礦(朔縣) トハ爐子溝ニ於ケル三炭礦即チ大石、四盛成及萬和成ノ總稱ナリトス、本炭礦ニ於テ稼行セルハ第六層ニシテ厚サ八尺ナルモ劣等炭及夾ミヲ除キ採炭部平均五尺乃至六尺ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十二銅錢ニシテ販路ハ朔縣及井坪堡ナリ

大石炭礦ハ宣統元年ノ開坑ニ係リ鑛主ハ閻芝ナリ、斜坑ハ深サ百九十六尺ニシテ

該坑底ヨリ北四十度東ニ向ヒ千八百尺掘進セリ、坑夫ハ三四人ニシテ日産二千三百斤ナリ

四盛成炭礦ハ民國四年ノ開坑ニ係リ鑛主ハ郭效儀ナリ、斜坑ハ深サ二百十尺ニシテ該坑底ヨリ北二十度東ニ向ヒ三百尺掘進セリ、坑夫ハ四人ニシテ日産二千四百斤ナリ

萬和成炭礦ハ民國四年ノ開坑ニ係リ鑛主ハ楊清ナリ、斜坑ハ深サ二百十尺ニシテ該坑底ヨリ北十度東ニ向ヒ五百尺掘進セリ、坑夫ハ五人ニシテ日産三千斤ナリ

(28) 安吉嶺炭礦(朔縣) ハ爐子溝炭礦ノ南五支那里、井坪堡ノ南東二十五支那里ニ位シ目下稼行中ナリ(踏査セス)

(29) 劉家窰子炭礦(朔縣) ハ劉家窰子ニ於ケル六炭礦即チ常泰和、東溝窰、五泰和、五龍洞、石硤子及六合柜ノ總稱ナリトス、本炭礦ニ於テ稼行セルハ第六層及第七層ニシテ其間隔ハ平均六十尺乃至八十尺ナリ、第六層ハ厚サ十尺ニシテ一尺八寸ノ夾ミト三尺五寸ノ劣等炭トヲ除キテ採炭部ノ厚サ平均四尺ナリ、第七層ハ厚サ六尺ニシテ三尺乃至二尺ノ劣等炭ヲ有シ採炭部ノ厚サ三尺乃至四尺ナリ、炭價ハ山元



渡シ百斤大塊炭十五六銅錢ニシテ販路ハ朔縣、山陰縣及應縣ナリ  
 常泰和炭礦ハ民國六年鑛主王殿始メテ斜坑ヲ開鑿シ深サ百二十六尺ニシテ第六層ニ著炭シ東方ニ掘進スルコト五十尺ニ及ヘリ、坑夫ハ二十人(但シ小供十五人ヲ含ム)ニシテ日産七千斤ナリ

東溝窰炭礦ハ上窰及下窰ヨリ成リ民國二年頃舊坑ヲ再開シタルモノナリ  
 上窰ハ劉化魚ノ所有ニシテ第七層ヲ稼行シ斜坑ハ深サ三十五尺ニシテ該坑底ヨリ北三十度東ニ向ヒ千餘尺掘進セリ、坑夫ハ六人(但シ小供四人ヲ含ム)ニシテ日産二千五百斤ナリ

下窰ハ劉克明ノ所有ニシテ第七層ヲ稼行ス、斜坑ハ深サ十四尺ニシテ該坑底ヨリ北方二千五百尺掘進セリ、坑夫ハ八人ニシテ日産四千八百斤ナリ

五泰和炭礦ハ北方ニ掘進セル二斜坑ニヨリテ第七層ヲ稼行ス、坑夫ハ各二人ニシテ日産各千斤内外ナリ

五龍洞炭礦及石碇子炭礦ハ各北々東ニ掘進セル斜坑ニヨリテ第六層ヲ稼行ス、坑夫ハ各二三人ニシテ日産各千二百斤内外ナリ

六合柜炭礦ハ民國六年鑛主羅銓ノ舊坑ヲ再開セシモノニシテ第六層ヲ稼行ス、斜坑ハ深サ三百五十尺ニシテ新坑道ハ該坑底ヨリ北西ニ八十尺掘進セリ、坑夫ハ十人ニシテ日産八千斤ナリ

(30) 全五營炭礦(朔縣) トハ全五營村ニ於ケル三炭礦即チ萬榮成、萬盛成及天泰成ノ總稱ナリトス、本炭礦ニ於テ稼行セルハ第六層及第七層ノ二炭層ニシテ其間隔ハ七十二尺ナリ、第六層ハ厚サ七尺内外ニシテ採掘スル部分ハ三尺三寸ナルモ三寸ノ夾ミヲ有シ採炭部ノ厚サハ三尺ナリ、第七層ハ厚サ五尺内外ニシテ採掘スル部分ハ四尺一寸ナルモ三寸乃至四寸ノ夾ミヲ有シ採炭部ノ厚サハ三尺七寸乃至三尺八寸ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十銅錢ニシテ販路ハ朔縣及花庄ナリ  
 萬榮成炭礦ハ光緒三十年頃ノ開發ニ係リ現鑛主ハ邊珍ニシテ第七層ヲ稼行ス、斜坑ハ深サ百九十尺ニシテ該坑底ヨリ南方二千餘尺掘進セリ、坑夫ハ十二人ニシテ日産七千斤ナリ

萬盛成炭礦ハ民國四年鑛主邊常存始メテ斜坑ヲ開鑿シ深サ百八十尺ニシテ第七層ニ著炭シ北方ニ掘進スルコト七百尺ニ及ヘリ、坑夫ハ四人ニシテ日産二千二百



斤ナリ

天泰成炭礦ハ民國五年鑛主邊珍始メテ斜坑ヲ開鑿シ深サ二百四十五尺ニシテ第六層ニ著炭シ是ヨリ南方ニ掘進スルコト四百尺ニ及ヘリ坑夫ハ五人ニシテ日産二千六百斤ナリ

(31) 滋裕炭礦(朔縣) ハ光緒三十二年現鑛主タル滋裕村ノ落芝榮ノ開坑ニ係リ宣統元年出水ノ爲メ休業セシム爾來隨時採炭シテ自家用ニ供セリ斜坑ハ深サ八十四尺ニシテ是ヨリ北五十度西ニ向ヒ六百尺掘進セリ稼行炭層ハ第七層ニシテ二尺餘ヲ採炭ス

(32) 桃八窪炭礦(朔縣) ハ劉家口子ノ西十支那里下窰子ノ南西二十二支那里ニ位ス、斜坑四箇アリテ全五營炭礦ト相對シ盛ニ稼行スト云フ(踏査セス)

(33) 窩々會炭礦(朔縣) トハ窩々會ニ於ケル三炭礦即チ五盛成、三盛成及雙盛成ノ總稱ナリトス、本炭礦ニ於テ稼行セルハ第六層ニシテ三尺乃至四尺ヲ採炭ス、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十六銅錢ニシテ販路ハ井坪堡及神池縣利民堡ナリ

五盛成炭礦ハ民國五年ノ開坑ニ係リ賈太如、李映堂及武光裕ノ共有ナリ、斜坑ハ深

サ二百十尺ニシテ是ヨリ東方二百尺掘進セリ坑夫ハ三四人ニシテ日産二千斤ナリ

三盛成炭礦ハ民國五年ノ開坑ニ係リ鑛主ハ賈奎ナリ、斜坑ハ深サ二百十尺ニシテ是ヨリ北十七度西ニ向ヒ百二十尺掘進セリ坑夫ハ十餘人ニシテ日産六千餘斤ナリ

雙盛成炭礦ハ宣統二年ノ開坑ニ係リ鑛主ハ周禧ナリ、斜坑ハ深サ二百十尺ニシテ是ヨリ北四十度西ニ向ヒ三百尺掘進セリ坑夫ハ五人ニシテ日産三千斤ナリ

(34) 小峰山炭礦(朔縣) トハ小峰山ニ於ケル三炭礦即チ旺家窰、趙家窰及高家窰ノ總稱ニシテ其坑内ハ互ニ連絡ス、本炭礦ニ於テ從來稼行セル炭層ハ五十尺乃至六十尺ヲ隔ツル第六層及第七層ナルモ現時主ニ第六層ヲ稼行シ、第七層ハ近年迄旺家窰ニ於テ之ヲ稼行セシカ目下其採掘ヲ休止ス

第六層ハ厚サ十尺四寸ニシテ四尺七寸ノ夾ミト一尺七寸ノ劣等炭トヲ除キテ採炭部平均四尺ナリ、第七層ハ厚サ八尺内外ナルモ劣等炭及夾ミノ部分多ク良炭部トシテ採炭シ得ルハ平均二尺五寸ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十一銅錢、碎炭



四銅錢ニシテ販路ハ平魯縣、三里莊、大千庄、交界、向陽堡、中々牌等ナリ  
旺家窰炭礦ハ吳天慶ノ所有ニシテ民國五年深サ百四十尺ノ新坑ヲ開鑿シ第六層  
ニ著炭シ是ヨリ北方ニ掘進スルコト八百尺ナリ、坑夫ハ七人ニシテ日産四千斤ナ  
リ

趙家窰炭礦ハ民國二年ノ開坑ニ係リ鑛主ハ吳天輔ナリ、斜坑ハ深サ二百十尺ニシ  
テ是ヨリ北二十度東ニ向ヒ千八百尺掘進セリ、坑夫ハ五六人ニシテ日産三千斤ナ  
リ

高家窰炭礦ハ民國三年ノ開坑ニ係リ鑛主ハ高某ナリ、斜坑ハ深サ二百十尺ニシテ  
是ヨリ二十度東ニ向ヒ千餘尺掘進セリ、坑夫ハ四人ニシテ日産二千餘斤ナリ

(35) 馬家窰炭礦(右玉縣) ハ白日龍ノ所有ニシテ宣統三年始メテ斜坑ヲ開鑿シ深サ  
九十一尺ニシテ著炭シ是ヨリ北六十度東ニ向ヒ掘進スルコト六百尺ナリ、稼行炭  
層ハ第六層ニシテ厚サ八尺内外アリ、此中採掘スル部分ハ六尺ナルモ中間ニ二尺  
ノ夾ミヲ有スルヲ以テ採炭部平均四尺ナリ、坑夫ハ十餘人ニシテ日産六千斤ナリ、  
炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十銅錢ニシテ販路ハ下窰、甫家村、威平堡、威遠堡等ナリ

(36) 范家屯炭礦(右玉縣) ハ馬家窰炭礦ノ東南東八支那里、下窰ノ南東十五支那里ニ  
位シ目下稼行中ナリ(踏査セス)

(37) 元甫子炭礦(右玉縣) ハ元甫子村大南梁ニアリテ鑛主ハ張家山ノ張舉人ナリ、本  
炭礦ハ光緒二十二年ノ開發ニ係リ舊坑五箇、新坑一箇アリ、新坑ハ深サ二百八十尺  
ニシテ是ヨリ坑道ハ南五十度東ニ向ヒ千五百尺アリ、稼行炭層ハ第五層ニシテ厚  
サ三尺アルモ平均二尺五寸ヲ採炭ス、坑夫ハ七人ニシテ日産二千六百斤ナリ、坑夫  
ノ賃金ハ食事自辨ニテ一日燕麥三斤(一斤八銅錢)ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭  
七銅錢ニシテ販路ハ張家山、威平堡、威遠堡等ナリ

(乙) 珠羅紀ニ屬スル炭礦

(38) 北溝炭礦(大同縣) ハ白廟村ニ隸屬シ雲崗ノ北西十五支那里、白廟ノ北々西三支  
那里ニ位シ、坑内出水ノ爲メ目下休業中ナリ(踏査セス)

(39) 姜家灣炭礦(大同縣) ハ嘗テ大同縣ノ人之ヲ稼行セシカ、漸次坑内ニ出水多ク民  
國四年ニ至リテ休業シ二舊坑今尙存在ス、稼行炭層ハ八尺乃至九尺ヲ採炭シ得々  
リト云フ



(40) 馬營窪炭礦(大同縣) ハ保華公司總辦ハ大同縣ノ何宗ノ經營ニ係レリ、其沿革詳カナラサルモ現時深サ二百十四尺ノ斜坑ニヨリテ稼行ス、坑道ハ坑底ヨリ北々西方三千六百尺ニ達シ坑内出水多ク操業困難ナルカ如シ、稼行炭層ハ第四層ニシテ七尺乃至八尺ヲ採炭シ大塊炭及碎炭ノ割合ハ四對六ナリ、坑夫ハ四人ニシテ日産二千斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十九銅錢、碎炭十銅錢ニシテ販路ハ雲崗及大同縣ナリ

(41) 陰堂溝炭礦(大同縣) ハ口泉鎮ノ西北西二十二支那里、阿家梁ノ北西十二支那里ニ位シ民國六年京綏鐵路工程局ニ於テ之ヲ買收セリ、坑口ハ一箇ニシテ三四十人ノ坑夫ヲ使役シ厚サ六尺ノ石炭ヲ採掘スト云フ(踏査セス)

(42) 羊家見炭礦(懷仁縣) ハ窰溝炭礦ノ東五支那里、鴉兒崖 北東十三支那里、四老溝炭礦ノ北西四支那里ニ位シ光緒元年頃ノ開發ニ係リ繼續シテ稼行セシカ漸次坑内ニ出水多ク民國六年二月ニ至リ休業セリ、現鑛主ハ候忠ニシテ稼行炭層ハ二尺七八寸ヲ採炭シ得タリト云フ(踏査セス)

(43) 窰溝炭礦(懷仁縣) ハ光緒二十五年頃ノ開發ニ係リ民國七年五月三千元ヲ以テ

現鑛主晋北鎮守使張樹幟之ヲ買收シ鑛區面積ハ二平方支那里ナリ、坑口ハ三箇ニシテ南ニ舊坑、北ニ稼行坑、中間ニ通風坑アリ、南ノ舊坑ハ第四層ノ露頭ニ沿ヒ東南東約二十五尺掘進セル水平坑道ナリ、本坑道ニ沿ヘル炭層ハ露頭部ニ近ク炭質脆弱ニシテ粉碎シ易ク大塊炭ヲ採炭シ得サルヲ以テ之ヲ休止セリ、然レトモ本坑道ヲ北東ニ深ク掘進スルニ於テハ第四層ノ炭質良好トナルヘク六尺乃至七尺ノ良炭部ヲ採掘シ得ル望アリ、北ノ稼行坑ハ斜坑ナリ、坑口ヨリ深サ九十一尺ニシテ第三層ニ著炭シ北々西ニ二千六百尺掘進シ平均三尺ヲ採炭ス、坑夫ハ十餘人ニシテ日産六千斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十四銅錢ニシテ販路ハ附近ノ村落ナリ

(44) 四老溝炭礦(懷仁縣) ノ保晋公司ノ經營ニ係リ宣統元年ニ開坑ス、其盛時ニハ坑夫四百人ヲ使役セシコトアリシカ坑内出水多ク終ニ宣統四年ニ休業セリ、茲ニハ深サ百五十尺乃至二百尺ノ斜坑四箇アリ、又嘗テ排水用ニ供シタル一臺ノ蒸氣汽罐坑口附近ニ遺棄セラル、ヲ見ル、稼行炭層ハ六尺ヲ採炭シ得タリト云フニ徴スレハ第四層ニ該當スルカ如シ



(45) 胡家窩炭礦(懷仁縣) ハ其沿革詳カナラス、現鑛主ハ晋北鎮守使張樹幟ニシテ民國六年之ヲ買收シ鑛區面積ハ十平方支那里ナリ、茲ニハ三坑アリテ南ナルヲ胡家窩窩、北ナルヲ慶封梁窩、其中間ナルヲ范金窩窩ト稱ス

胡家窩窩ハ坑口ヨリ東方百尺ノ間ハ水平坑道ナリ、其末端ヨリ深サ百十尺掘下シテ第三層ニ著炭シ更ニ深サ三十二尺ニシテ第四層ニ著炭セリ、而シテ第三層及第四層ニ沿ヒテ竝行ナル二重坑道ヲ掘鑿シ第三層ヨリハ三尺五寸、第四層ヨリハ六尺ヲ採炭ス、坑夫ハ四十餘人ニシテ日産二萬五千斤ナリ

范金窩窩ハ斜坑ナリ、坑口ヨリ深サ九十三尺ニシテ第四層ニ著炭シ是ヨリ南々西ニ掘進スルコト六百尺ニ達セリ、第四層ノ採炭部ハ六尺ナリ、坑夫ハ七八人ニシテ日産四千斤ナリ

慶封梁窩ハ斜坑ナリ、坑口ヨリ深サ九十二尺ニシテ第四層ニ著炭シ坑底ヨリ南西ニ約二千尺掘進セシニ出水甚タシク爲ニ採炭ヲ休止セリ、第四層ノ採炭部ハ六尺乃至七尺ナリ

炭價ハ山元渡シニテ百斤大塊炭十二銅錢トシ販路ハ口泉停車場及大同縣ナリト

(46) 老四溝炭礦(懷仁縣) ニハ其南部ニ舊坑三アリ、其沿革不明ナルモ坑内或ハ發火シ或ハ出水セシヲ以テ之ヲ廢棄セリト云フ、其北部ニハ現ニ稼行セル坑道アリ、民國五年ノ開鑿ニ係リ深サ十尺ニシテ第四層ニ著炭シ坑底ヨリ西方ニ掘進スルコト千八百尺ニ及ヒ四尺ヲ採炭ス、現鑛主ハ鴉兒崔村ノ黃西園ニシテ坑夫四人ヲ使役シ日産二千斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十銅錢ニシテ販路ハ口泉鎮ナリトス

(47) 園子溝炭礦(懷仁縣) ハ鴉兒崔村ノ黃進德ノ所有ニシテ鑛區面積ハ一平方支那里ナリ、茲ニハ南北二坑アリテ第三層及第四層ノ二炭坑ヲ稼行ス  
北坑ハ民國五年ノ開鑿ニ係リ第四層ノ露頭ニ沿ヒ南東三百尺ヲ掘進シ五尺ヲ採炭ス

南坑ハ民國七年八月ノ開鑿ニ係リ第三層ノ露頭ニ開坑シ深サ十二尺ヲ掘下シ第四層ニ著炭シ第四層ニ沿ヒ西南西二十尺ヲ掘進セシニ坑内出水多ク第四層ノ採炭ヲ中止シ第三層ノミヲ採炭ス、而シテ第三層ヨリ三尺、第四層ヨリ四尺五寸ヲ採



炭シ得、坑夫ハ三人ニシテ日産千五百斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十五銅錢ニシテ販路ハ口泉鎮ナリ

(48) 樹兒灣炭礦(懷仁縣) ハ民國七年五月始メテ斜坑ヲ開鑿シ深サ十七尺ニシテ著炭シ南四十度東ニ向ヒ掘進中ナリ、鑛主ハ晉北鎮守使張樹幟ナリ、稼行炭層ハ第四層ニシテ是ヨリ四尺ヲ採炭ス、坑夫ハ五人ニシテ日産七百斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十二銅錢ニシテ販路ハ口泉停車場及大同縣ナリ

(49) 小馬營潤炭礦(懷仁縣) ハ光緒三十三年頃ノ開發ニ係リ爾來繼續稼行セシカ民國五年ニ至リ坑内出水甚タシク終ニ休業セリ、鑛主ハ曹海軍次長ニシテ一ノ豎坑ニテ稼行セリ、炭層ハ厚サ十二尺ニテ十尺ヲ採炭シタリト云フニ徴スレハ第二層ニ該當スルカ如シ

(50) 大馬營潤炭礦(懷仁縣) ハ光緒二十二年頃ノ開發ニ係リ鑛主ハ保晉公司總辦趙星西ニシテ鑛區面積ハ百畝ナリ、斜坑ハ深サ七十五尺ニシテ現在ノ採炭區域ハ坑口ヨリ西南西二千七百尺ナリ、稼行炭層ハ第二層ニシテ優ニ十三尺ヲ採炭ス、坑夫ハ三十人ニシテ日産一萬八千斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十五銅錢、碎炭八

銅錢ニシテ販路ハ口泉停車場及大同縣ナリ

(51) 王家潭炭礦(懷仁縣) ハ民國元年保晉公司ノ有ニ歸シ直チニ開坑シ以テ今日ニ及ヘリ、坑ハ一ニシテ北五十度東ニ向ヒ水平ニ掘進スルコト約二十尺、茲ニ深サ約十尺掘下シテ第三層ニ著炭シ更ニ北東ニ八百尺ヲ掘進セリ、第三層ヨリハ三尺ヲ採炭ス、坑夫ハ五人ニシテ日産二千斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十三銅錢ニシテ販路ハ口泉停車場及大同縣ナリ

(52) 紅石崖炭礦(左雲縣) ハ其沿革不明ナリ、現鑛主ハ天津ノ人陳某ニシテ民國七年二月ヨリ殆ント休止ノ状態ニ陥リ坑夫二人アリテ日産千斤ナリ、斜坑ハ一ニシテ深サ十尺、坑道ノ延長南々西二千尺ナリ、稼行炭層ハ第二層ニシテ十二尺ヲ採炭ス、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十銅錢ニシテ販路ハ口泉鎮ナリ

(53) 青楊灣炭礦(左雲縣) ハ大同裕晉礦務公司(山西省長兼督軍閻錫山及晉北鎮守使張樹幟ノ合資ヲ以テ成ル)ノ經營ニ係リ專ラ徐士瑜之ヲ管理ス、鑛區面積ハ十平方支那里ナリ、斜坑ハ東西二坑アリテ互ニ連絡ス、民國三年西坑ヲ開鑿シ深サ四十九尺ニシテ著炭シ北方ニ千五百尺掘進セシニ出水甚シク民國五年ニハ殆ント休止



ノ状態ニ陥リシカ坑口ニ一臺ノ汽罐ヲ設置シ蒸氣力ニヨリテ排水ニ努ムルト同時ニ東坑ヲ開鑿シ深サ二十五尺ニシテ著炭シ北々東ニ掘進シテ民國六年ニ漸ク出炭シ得ルニ至レリ、目下東坑ノ延長六百尺ナリ、稼行炭層ハ第二層ニシテ十二尺ヲ採炭ス、坑夫ハ百餘人ニシテ日産六萬斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十五銅錢ニシテ販路ハ大同縣及張家口ナリ

(54) 手家溝炭礦(左雲縣) ハ黑流水村ノ吳某之ヲ經營シ民國六年鑛主關係他事業ノ失敗ノ結果延テ本炭礦ニ影響シ殆ント休止ノ状態ニ陥リ目下坑夫二人ニシテ日産千斤ナリ、斜坑ハ三アリテ其中二坑ハ民國三四年頃既ニ採炭ヲ休止セリ、稼行坑ハ深サ三十尺ニシテ坑道ヲ延長北西三百尺ナリ、稼行炭層ハ第二層ニシテ八尺乃至九尺ヲ採炭ス、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十五銅錢、碎炭七銅錢ニシテ販路ハ附近ノ村落ナリ

(55) 青家山炭礦(左雲縣) ハ光緒五年頃ノ開發ニ係リ一谿谷ヲ隔テ、南側ハ保晉公司所有鑛區ニシテ北側ハ王可貞、李美、閻明及栗恩漢ノ共有鑛區ナリ、南部鑛區ニハ露頭ヨリ南方ニ掘進セル略水平ナル三坑道アリテ互ニ連絡シ延長

千八百尺ニ達セシニ出水甚シク終ニ宣統元年休業セリ、稼行炭層ハ第二層ニシテ九尺ヲ採炭シタリ

北部鑛區ハ面積四支那里平方ニシテ光緒二十八年現鑛主之ヲ買收シ爾來繼續稼行ス、坑道ハ露頭ヨリ北方ニ掘進シ略水平ニシテ延長三千餘尺ニ及ヘリ、稼行炭層ハ第二層ニシテ九尺ヲ採炭ス、坑夫ハ十二人ニシテ日産七千斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十二銅錢、碎炭六銅錢ニシテ販路ハ口泉停車場、大同縣及懷仁縣ナリ

(56) 張家風炭礦(左雲縣) ハ上張家風ニアリテ鑛區ハ東西ノ二部ニ分タレ、東部ハ義昌公司(總辦ハ晉北鎮守使張樹幟ナリ)ニ、西部ハ同發公司、張樹幟及孔師長ノ合資組織ナリニ屬ス

義昌公司所有鑛區ハ宣統元年ノ開發ニ係リ民國七年五月本公司ニ於テ之ヲ買收セリ、斜坑ハ西ヨリ東ニ走レル谿谷ヲ隔テ、北側ニ三箇、南側ニ二箇アリ、北側ノ斜坑ハ北方ニ掘進セルモノニシテ悉ク出水多キヲ以テ休業シ目下南側ノ二斜坑ニヨリテ稼行ス、一ハ深サ三十七尺ニテ著炭シ南西ニ掘進シ、一ハ深サ五十六尺ニテ著炭シ西南西ニ掘進シ以テ互ニ連絡ス、而シテ其延長ハ千五百餘尺ニ達セリ、稼行



炭層ハ第二層ニシテ十尺ヲ採炭ス、坑夫ハ二十餘人ニシテ日産一萬二千斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十一銅錢ニシテ販路ハ大同縣ナリ  
同發公司所有鑛區ニハ谿谷ノ南側ニ一斜坑アリ、本坑ハ民國六年四月開鑿ニ著手シ民國七年八月深サ三十七尺ニテ著炭シ南々東ニ掘進中ナリ、炭層ハ第二層ニシテ十尺ヲ採炭シ得ルモ未タ大塊炭ヲ採取スルニ至ラス、坑口ニハ水揚裝置ヲ備ヘテ盛ニ排水シツ、アリ

(57) 大石頭山炭礦(左雲縣) 鑛主ハ水窰ノ豪農孟敬儒ニシテ光緒二十年頃ノ開發ニ係リ新舊各一坑アリ新坑ハ民國五年ニ開鑿シ深サ四十尺ニテ著炭シ北三十度東ニ向ヒ掘進シテ目下延長三百尺ニ達セリ、稼行炭層ハ第二層ニシテ十一尺ヲ採炭ス、坑夫ハ三十人ニシテ日産一萬八千斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十五銅錢ニシテ販路ハ懷仁縣及應縣ナリ

(58) 土溝長炭礦(左雲縣) ハ民國元年ノ開坑ニ係リ鑛主ハ孟敬儒ナリ、斜坑ハ一ニシテ深サ五十六尺ニテ著炭シ目下北方ニ九十尺掘進セリ、稼行炭層ハ第二層ニシテ十二尺ヲ採炭ス、坑夫ハ十人ニシテ日産六千斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十

五銅錢ニシテ販路ハ懷仁縣及應縣ナリ

(59) 高車灣炭礦(左雲縣) ハ吳某始メテ光緒二十四年頃開坑シ後現鑛主孫某ノ有ニ歸シ繼續稼行セシカ民國七年正月俄ニ坑内發火セシヲ以テ目下休業中ナリ、斜坑ハ一ニシテ深サ四十五尺ニテ著炭シ西南西ニ向ヒ三千六百尺ヲ掘進セリ、稼行炭層ハ第二層ニシテ十尺ヲ採炭シタリ

(60) 董家嘴炭礦(左雲縣) ハ光緒二十三年頃現鑛主孟敬儒始メテ開坑シ爾來繼續稼行ス、斜坑ハ二アリテ上窰及下窰ト稱ス、上窰ハ深サ三十五尺ニシテ著炭シ南々東ニ二千尺掘進セシニ出水甚シク民國五年採炭ヲ休止セリ、下窰ハ深サ二十一尺ニテ著炭シ南西ニ向ヒ掘進シ目下八百尺ニ達セリ、上窰及下窰ノ稼行炭層ハ同一ニシテ第二層ニ屬シ九尺ヲ採炭ス、坑夫ハ三人ニシテ日産千五百斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十六銅錢ニシテ販路ハ懷仁縣ナリ

(61) 大里倉炭礦(左雲縣) ハ大石頭山炭礦ノ北東一支那里ニ位スル舊坑ニシテ沿革不明ナリ、稼行炭層ハ大石頭山炭礦ノモノト同一層ニシテ十尺ヲ採炭シタリ

(62) 刀落寺炭礦(左雲縣) ハ目下稼行中ニシテ董家嘴炭礦ノ北七支那里、青家山炭礦



ノ西北西七支那里、雲西堡ノ南三十支那里ニ位ス、稼行炭層ハ九尺ヲ採炭スト云フニ徴スレハ第二層ニ該當スルカ如シ、尙本炭礦ノ附近ニハ(63)黑豆嘴炭礦及鏡兒溝炭礦アリ(踏査セス)

(64)興隆溝炭礦(左雲縣) 鑛主ハ唐某ニシテ鑛區面積ハ東西二支那里、南北一支那里ナリ、斜坑ハ三アリテ北窰、中窰及南窰ト稱ス、南窰ハ民國六年ノ開鑿ニ係リ深サ七十尺ニテ著炭シ北々東ニ向ヒ三十尺掘進セシニ出水甚シク採炭ヲ休止セリ、中窰ハ光緒年間ノ開坑ニ係リ深サ八十四尺ニテ著炭シ南々西ニ向ヒ八百餘尺掘進セシニ出水多ク民國二年採炭ヲ休止セリ、北窰ハ民國元年ノ開坑ニ係リ深サ百四十尺ニテ著炭シ南西ニ向ヒ掘進シテ目下延長二百尺ニ達セリ、稼行炭層ハ第二層ニシテ厚サ十三尺ナルモ七尺ヲ採炭ス、坑夫ハ二百餘人ニシテ日産十二萬斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十五銅錢、碎炭八銅錢ニシテ販路ハ左雲縣、右玉縣、殺虎口、寧遠等ナリ

(65)黃林溝炭礦(左雲縣) ハ吳家河ノ水源地ニアリテ馬道頭ノ東四支那里、小圪駝店ノ北二支那里、興隆溝炭礦ノ南西十二支那里ニ位ス、目下稼行中ニシテ採掘セシ石

炭ハ馬道頭ニ搬出セララル(踏査セス)

(66)干溝炭礦(大同縣) ハ廣興公司(總辦ハ安徽省ノ人汪潤甫ナリ)ノ經營ニ係リ鑛區面積ハ約二支那里平方ナリ、民國三年開坑シ今日迄繼續稼行中ナリ、斜坑ハ深サ九十一尺ニシテ現在ノ採炭區域ハ坑口ヨリ東方百五十尺ナリ、坑内出水多キヲ以テ坑口ニハ一臺ノ汽罐ヲ設置シ蒸氣力ニヨリ排水セリ、稼行炭層ハ第二層ニシテ十二尺ヲ採炭シ、坑夫ハ二百餘人ニシテ日産十二萬斤ナリ、附帶事業トシテ煉炭ヲ燒製ス、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十二銅錢、碎炭五銅錢、煉炭二十銅錢ニシテ販路ハ豐鎮縣、天城村、二道河等ノ蒙古地方ナリ

(67)桃花溝炭礦(大同縣) ニハ十數年來ノ舊坑四箇アルモ其沿革不明ナリ、本炭礦ハ民國三年集成煤礦公司(總辦ハ大同縣窰洞村ノ張天甲ナリ)ノ有ニ歸シテヨリ繼續稼行シ鑛區面積ハ六十餘畝ナリ、稼行斜坑ニアリ共ニ深サ五十尺ナリ、採炭區域ハ坑口ヨリ西方約五百尺ナリ、稼行炭層ハ第二層ニシテ十一尺ヲ採炭ス、坑夫ハ二十餘人ニシテ日産一萬二千斤ナリ、附帶事業トシテ煉炭ヲ燒製ス、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十四銅錢、煉炭二十銅錢ニシテ販路ハ豐鎮縣、天城村、二道河等ノ蒙古地方



ナリ

(68) 新周窰炭礦(大同縣) ハ桃花溝炭礦ノ南二支那里ニ位シ目下休業中ナリ(踏査セ

ス)  
(69) 乳家嘴炭礦(大同縣) ハ同治六年開坑以來五十二年間繼續稼行シ其盛時ニハ坑夫一千人ヲ使役シ日産五十萬斤ナリシカ漸次衰退シテ民國七年ニハ坑夫僅ニ五人ニテ日産三千斤ノ出炭ヲ見ルノミ、現鑛主ハ北京ノ人陳某ニシテ民國六年末之ヲ二千七百七十元ヲ以テ買收セリ

現ニ稼行セル斜坑ニアリ一ハ南五十度東ニ向ヘル斜坑ニシテ深サ七十五尺、坑道ノ延長九百尺ナリ、一ハ南六十度西ニ向ヘル斜坑ニシテ深サ百尺、坑道ノ延長八百尺ナリ、稼行炭層ハ第二層ニシテ十一尺ヲ採炭ス、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十六銅錢ニシテ販路ハ豐鎮縣ナリ

(70) 堡子灣炭礦(大同縣) ハ乳家嘴炭礦ノ南西二支那里ニ位シ目下休業中ナリ、鑿坑ハ一ニシテ稼行炭層ハ厚サ十二尺ニシテ十尺ヲ採炭シタリ(踏査セス)

(丙) 珠羅紀乃至珠羅紀以後ニ屬スル炭礦

(71) 雀兒山炭礦(左雲縣) ハ高山城ノ北々西八支那里、葛嘴子ノ南東二支那里ニ位ス鑛主ハ成某ニシテ宣統元年頃開坑セリ、坑ハ露頭ヨリ掘進セル水平坑道ニシテ採炭區域ハ北五十度東ニ向ヒテ六百尺ニ及ヘリ、稼行炭層ハ第一層ニシテ其厚サ二尺五寸アルモ二尺ヲ採炭ス、而モ炭質劣等ニシテ硫化鐵ヲ含有シ碎炭ノミヲ採取ス、坑夫ハ七人ニシテ日産三千五百斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤八銅錢ニシテ販路ハ附近ノ村落ナリ

(72) 斗子溝炭礦(左雲縣) ハ舊高山村ノ北十二支那里餘、南清水河ノ南東二十支那里、葛嘴子ノ南西十二支那里ニ位ス、鑛主ハ趙某ニシテ光緒十七年始メテ開坑シ目下東窰及西窰ノ二坑ニテ稼行ス、坑夫ハ四人ニシテ日産二千五百斤ナリ、稼行炭層ハ二尺七八寸ノ採炭部アリト云フ(踏査セス)

(73) 新葉子山炭礦(左雲縣) ハ舊高山村ノ南東六支那里ニ位シ鑛主ハ左雲縣ノ謝某ナリ、本炭礦ハ光緒十七八年頃ノ開發ニ係リ民國元年新坑ヲ開鑿シテ著炭シ以テ繼續稼行ス、坑夫ハ十二人ニシテ平均四尺ヲ採炭シ日産七千斤ナリト云フ(踏査セ



(74) 揚樹灣炭礦(大同縣) ハ高山城ノ北東五支那里ニ位シ鑛主ハ福某ニシテ民國七年三月開坑セリ、坑ハ露頭ヨリ掘進セル水平坑道ニシテ採炭區域ハ南二十度東ニ向ヒテ二百七十尺ニ及ヘリ、稼行炭層ハ第一層ニシテ三尺ヲ採炭ス、而モ炭質劣等ニシテ碎炭多ク大塊炭少ナシ、坑夫ハ十人ニシテ日産六千斤ナリ、炭價ハ山元渡シ百斤大塊炭十銅錢、碎炭五銅錢ニシテ販路ハ附近ノ村落ナリ

(75) 高山城西門外炭礦(左雲縣) ハ嘗テ深サ五十尺ノ斜坑ニテ著炭シ南西方ニ向ヒ採掘セシニ出水甚シク終ニ數年前之ヲ廢棄セリ、稼行炭層ハ雀兒山炭礦ノモノニ類似スル炭質ヲ有シ平均三尺ヲ採炭シタリト云フ

(76) 交泥溝炭礦(大同縣) ハ二臺子村ニ屬シ民國四年大同縣ノ汪某始メテ開坑シ目下稼行中ナリ、坑ハ露頭ヨリ掘進セル水平坑道ニシテ採炭區域ハ南二十度東ニ向ヒテ四百尺ニ達セリ、稼行炭層ハ第一層ニシテ其厚サ三尺五寸ナルモ二尺七八寸ヲ採炭ス、而モ炭質劣等ニシテ硫化鐵ヲ含有シ又大塊炭ヲ得ルコト難ク碎炭ノミヲ採取ス、炭價ハ山元渡シ百斤五銅錢ニシテ販路ハ附近ノ村落ナリ

(77) ウーカートト炭礦(大同縣) ハ白廟村ニ屬シテ十里河ノ南岸ニ位ス、坑内出水多キヲ以テ廢業セリ

### 第七章 採掘法、坑夫ノ能率及賃金

本炭田ノ炭礦ニテハ炭層ノ露頭ヨリ直チニ掘進セル坑道極メテ少ナク概シテ坑ハ四十度乃至五十度ノ角度ヲ有スル斜坑ニシテ常ニ炭層ヨリ上部ニ位スル地層中ニ掘下シ著炭スレハ直チニ炭層ニ沿ヒテ水平坑道ヲ掘鑿ス、斜坑ハ其横斷面ニ於テ梯形ヲナシ多ク上底三尺、下底五尺、高サ五尺アリ、而シテ下底ノ壁ヲ成ス地層ヲ高サ約七寸宛ノ階段ニ刻鑿ス、普通斜坑ノ深サハ五十尺乃至百尺ニシテ二百尺乃至四百尺ニ達スルモノ稀ナリ、本坑道並ニ支坑道ハ毫モ木材ヲ使用スルコトナク坑道ノ左右兩壁ハ巧ニ砂岩、頁岩、石灰岩等ニテ疊メリ、又其上下兩壁ハ炭層ノ兩盤ヨリ成ル

採炭ニ際シ坑夫ノ最モ意ヲ注クハ所謂大塊炭ヲ得ルニアリ、從テ坑夫ハ鶴嘴ヲ使用スルコト稀ニシテ多クハ長サ五六寸ナル鐵製ノ帽ヲ石炭ニ打込ミ大塊炭ヲ採取ス、採掘セル石炭ハ人背ニヨリ百二三十斤宛坑外ニ搬出ス



坑夫ノ採炭能率ハ一日一人五百斤乃至八百斤、普通六百斤ナルヲ以テ三人ニテ一日一噸ヲ採炭スル割合ナリ、其賃金ハ本炭田ノ北部ニアル炭礦ト南部ニアル炭礦トニ於テ差異アリ、即チ北部ノ大同、左雲、懷仁ノ三縣下ノ炭礦ニテハ食事自辨トシ一日三十銅錢乃至六十銅錢、普通五十銅錢ナルモ懷仁縣(吳家窰附近)、朔縣、平魯縣、右玉縣等ノ炭礦ニテハ食事自辨トシ一日二十銅錢乃至三十銅錢、普通二十五銅錢ナリ

### 第八章 運搬狀況、石炭ノ販路及小賣價格

運搬狀況 民國七年九月大同縣、口泉鎮間ヲ通スル京綏鐵道ノ運炭支線完成セシ以來大同縣、左雲縣及懷仁縣ニ産スル石炭ハ口泉鎮ニ集マリ茲ヨリ京綏鐵道ニ依リ遠ク陽高縣、天鎮縣、張家口等ニ輸送セラルニ至レリ、一般ニ本炭田ノ石炭運搬ハ驢、騾及大車ニヨルモノ多ク孤輪車及人背ニヨルモノ稀ナリトス、茲ニ各積載量及一日ノ行程ヲ示セハ左ノ如シ

驢	騾	大車	孤輪車	人背
積載量	二百五十斤	二千二百斤	二百斤	八十斤乃至五十斤
一日ノ行程	五六十支那里	五六支那里 四五十支那里	三十支那里	三十支那里

石炭ノ販路及小賣價格 本炭田産石炭即チ大塊炭ノ販路及小賣價格ヲ表示セハ左ノ如シ

販路	小賣價格	石炭産出ノ炭礦名
口外豐鎮縣	九十銅錢	干溝、桃花溝、乳家嘴



左	右	右	右	神池縣	平	平	朔	朔	應	應
雲縣	玉縣威遠堡	玉縣威遠堡	玉縣(朔平)	利民堡	魯縣井坪堡	魯縣	縣花庄	縣	縣大營子	縣
二十四五銅錢	三十五銅錢	三十五銅錢	六七十銅錢	三十銅錢	二十銅錢	四十五銅錢	三十五銅錢	三十銅錢	三十三銅錢	四十五銅錢
興隆溝	元甫子、馬家窪	元甫子、馬家窪	興隆溝	高々會	高々會、爐子溝、小峯山、亂道溝	小峯山、界山、亂道溝	全五營	全五營、劉家窩子	四峯山、白頭溝	劉家窩子、大石頭山、土溝長

山陰縣舊岱岳	山陰縣	懷仁縣第三作	懷仁縣	大同縣口泉鎮	大同縣雲崗堡	大同縣聚樂堡	大同縣山底	大同縣	口外涼城縣天城村	販路
三十銅錢	三十五銅錢	二十銅錢	二十五六銅錢	三十銅錢	二十二銅錢	五十銅錢	五十五銅錢	四十銅錢	二百銅錢	小賣價格
水頭、黃老溝	四峯山、劉家窩子	四峯山、東溝、水溝	吾道溝、大石頭山、曹家山	紅石崖、老四溝、窩溝	黃土金、馬營窪	青楊灣、大馬營澗	斗窩溝	大溝、斗窩溝、青家山、張家風、青楊灣	干溝、桃花溝	石炭產出ノ炭礦名



張家口	柴溝堡	天鎮縣	陽高縣	左雲縣 高山城	左雲縣 雲西堡	販路
九十銅錢	八十銅錢	七十銅錢	六十銅錢	十銅錢	二十銅錢	小賣價格
京綏鐵道ニ依リ口泉鎮ヲ經テ來レル石炭				楊樹灣	刀落寺	石炭產出ノ炭礦名

### 第九章 通貨

調査區域即チ北部山西省、察哈爾特別行政區域及歸綏特別行政區域ニ於テハ日常物資ノ價格ハ青錢(青錢兒)ヲ以テ建値シ其流通著シ、青錢ニ次ク流通貨幣ハ現洋(即チ大洋及小洋)云フ及銅錢(銅子兒)ナリ、大洋ノ一元トシテ通用スルハ袁世凱肖像

站人及光緒元寶(北洋造)ニシテ造幣廠造ノ光緒元寶ハ九十七仙内外ノ價格ヲ以テ通用シ處ニヨリ全ク通用セサルコトアリ、小洋ハ略銅錢ノ十倍乃至二十倍ニ、銅錢ハ青錢ノ十倍ニ相當ス  
紙幣(票子)ノ流通範圍ハ京綏鐵道沿線ノ縣城ニ限ラル、其種類及通用價格ヲ示セハ左ノ如シ

流通紙幣ノ種類	通用價格
中國票 (張家口)	額面通り
中國票 (北京)	五十一仙乃至五十三仙
交通票 (張家口)	額面通り
交通票 (北京)	五十一仙乃至五十二仙

大同縣城内ニ交通銀行滙兌所及中國銀行滙兌所アリテ各張家口ニ於テ發行セル交通票及中國票ニ對シテノミ手數料ヲ要セスシテ兌換ニ應シツ、アリ、然レトモ



天津ニ於テ發行セル交通票ハ大同縣ニテ現洋ト同價格ヲ以テ通用スルニ拘ハラ  
ス交通銀行滙兌所ハ其兌換ニ應セス

第十章 支那官憲ト炭礦

山西省長兼督軍閻錫山ハ民國七年九月始メテ口泉鎮ニ大左懷煤礦警務總局並ニ  
大左懷煤礦商務總會ヲ設置セリ該商務總會ハ表面上私設ト號スルモ閻督軍晋北  
鎮守使張樹幟及閻督軍ノ叔父閻子安ノ經營ニ係リ本炭田ニ於ケル諸炭礦ヲ管理  
シ主ニ炭礦ノ賣買並ニ外國人ノ投資ヲ監視ス其簡章之宗旨曰會長即張鎮守使。  
組織此會。惟保全大懷左三縣之煤礦商業。不准此三處人民將煤窰。出售與外國  
人。此即其要點也。(時文)

又本炭田ニハ支那官憲ノ關係セル炭礦少ナカラス之ヲ示セハ左ノ如シ

炭 礦 名	經 營 者
大同縣陰堂溝炭礦	京綏鐵路

懷仁縣 審溝炭礦	晋北鎮守使張樹幟
懷仁縣 胡家窩炭礦	張鎮守使
懷仁縣 樹兒灣炭礦	張鎮守使
懷仁縣 小馬營澗炭礦	曹海軍次長
左雲縣 青楊灣炭礦	大同裕晋礦務公司(閻督軍及張鎮守使ノ合資)
左雲縣 張家風炭礦	義昌公司(總辦ハ張鎮守使ナリ 張鎮守使及孔子長ノ合資)



京綏鐵道沿線

張家口

大同

間鑛產地調查報文

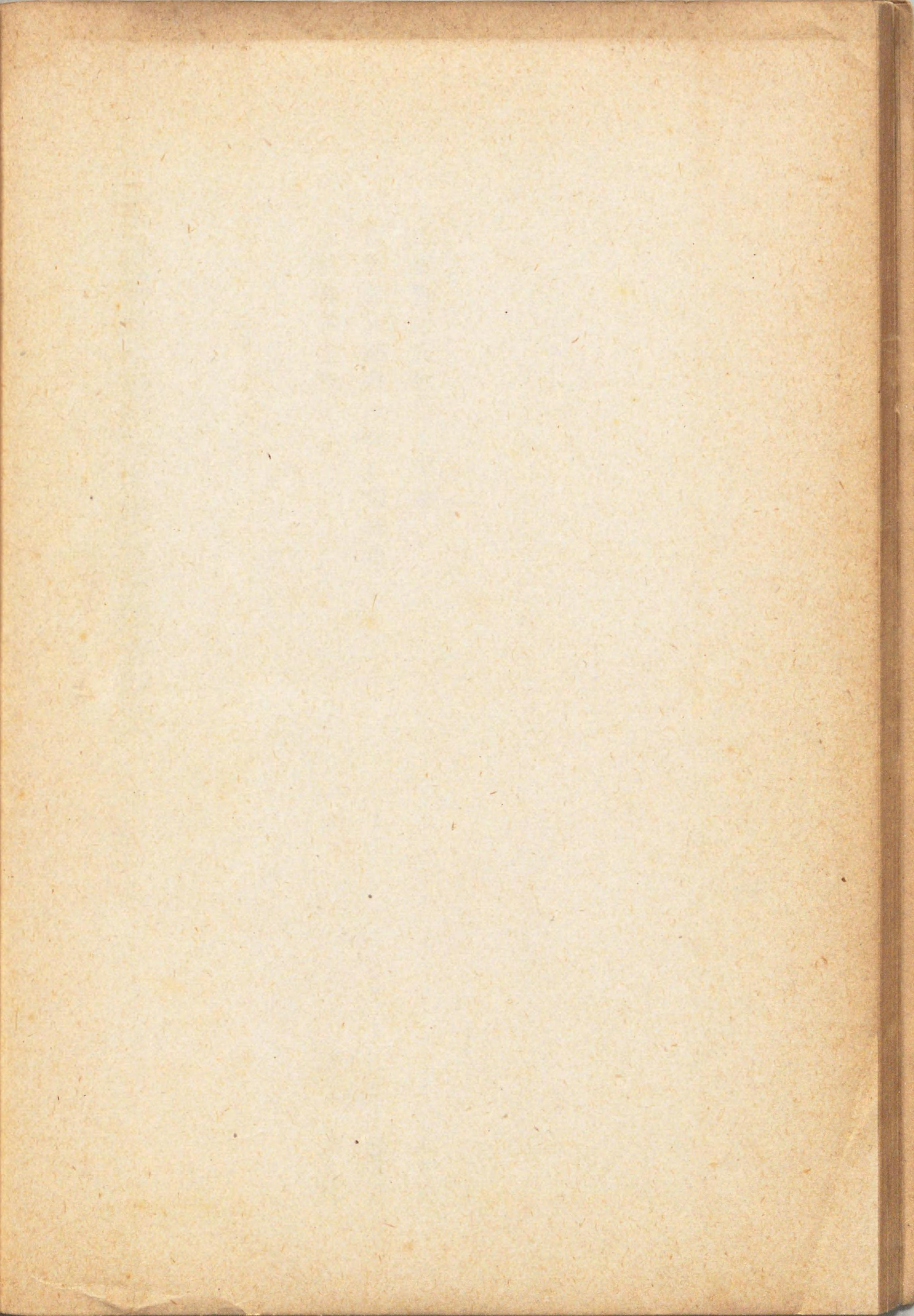
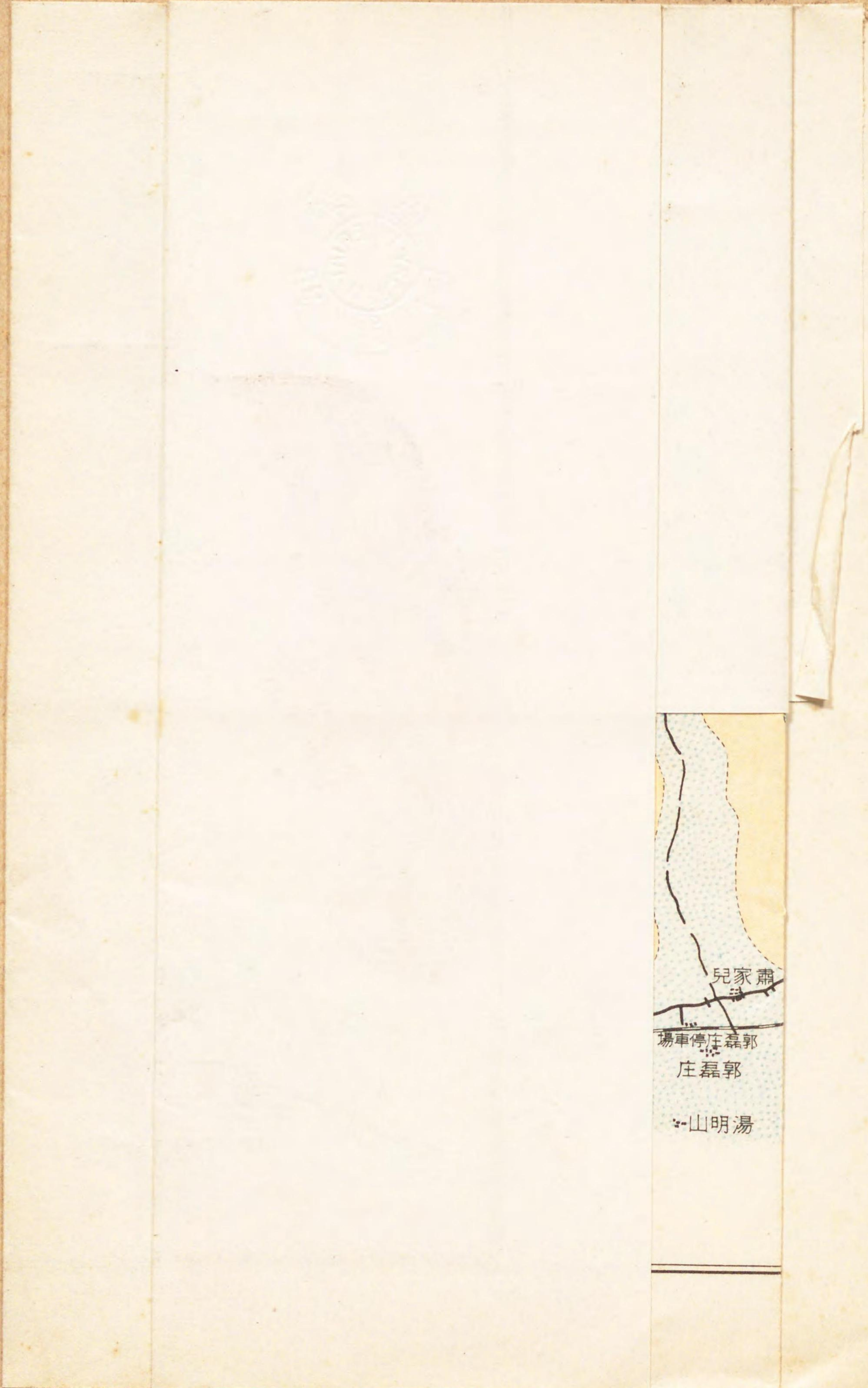


京綏鐵道沿線<sup>張家口</sup>間鑛產地調查報文

目次

直隸省萬全炭田	六九頁
山西省天鎮縣水磨口鉛鑛山	七八頁
山西省大同炭田ノ鐵鑛	八五頁

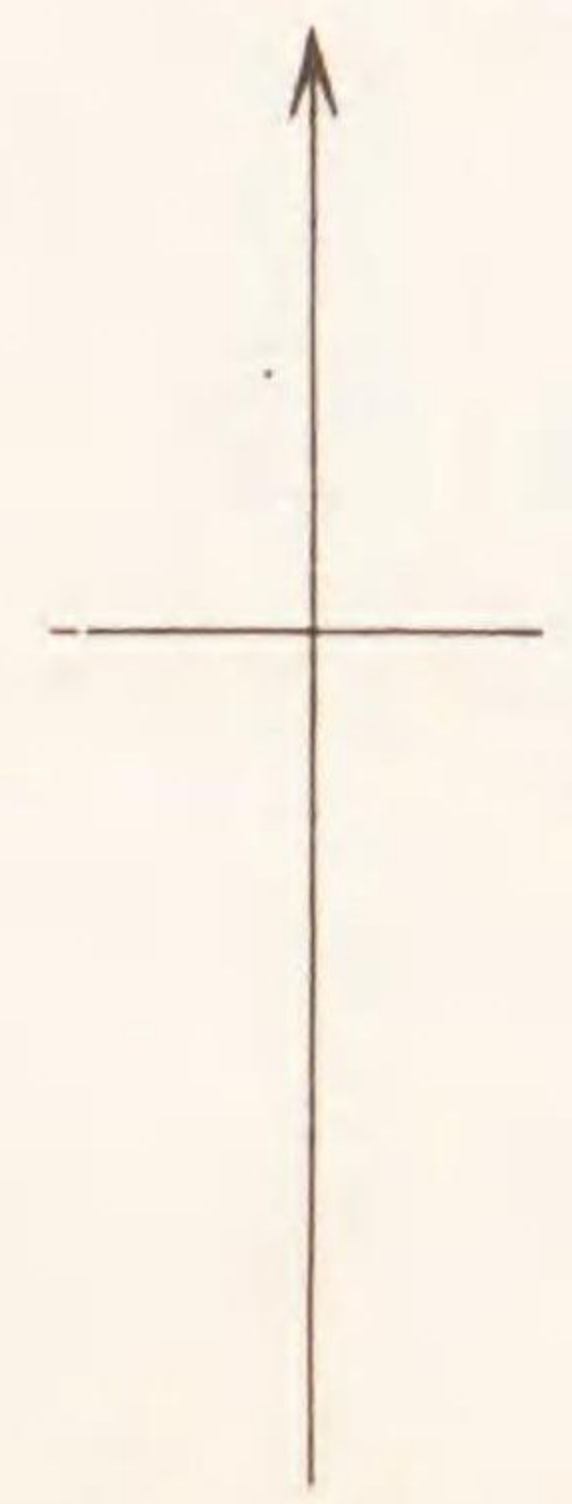
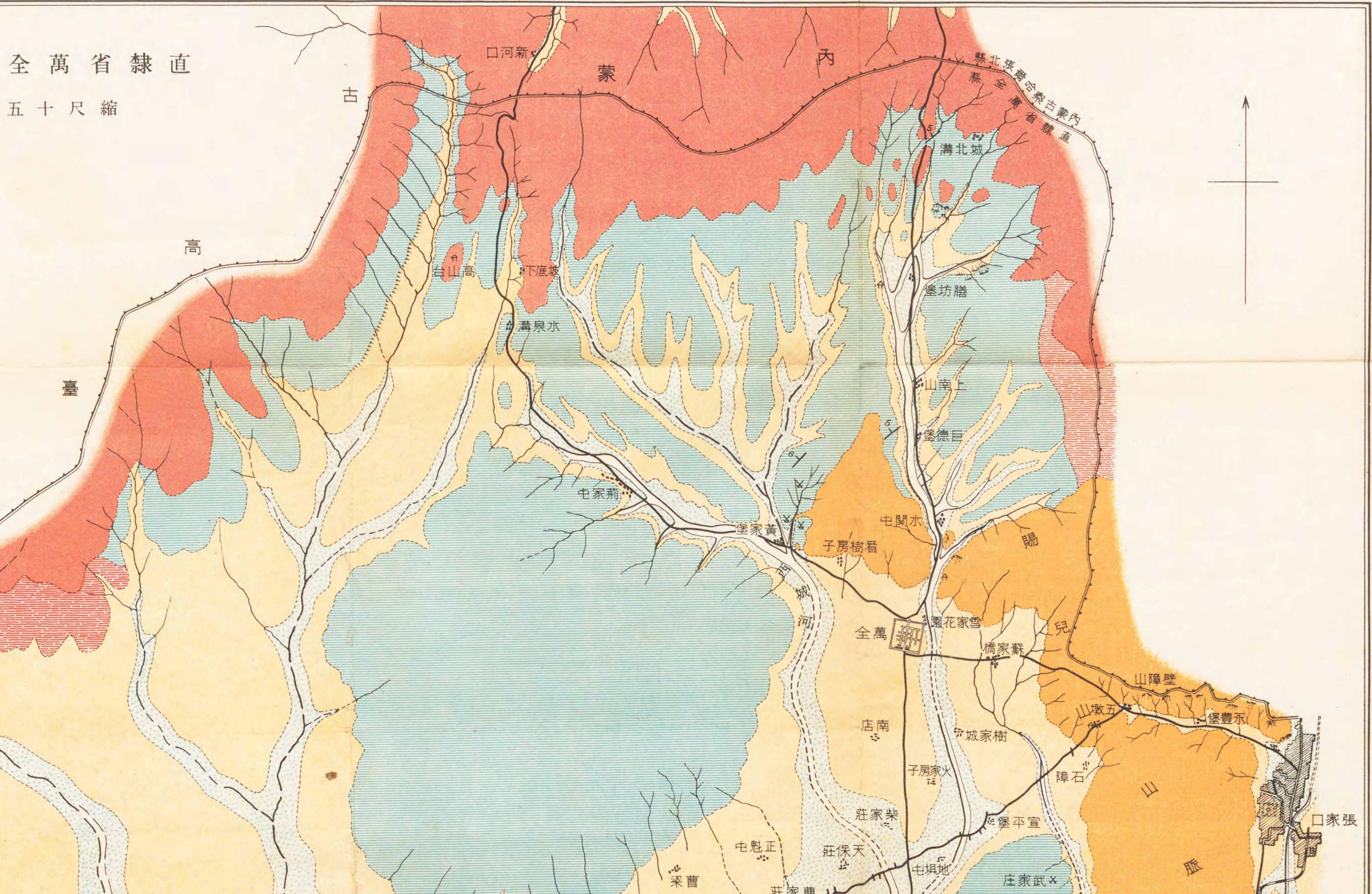






直隸省全圖

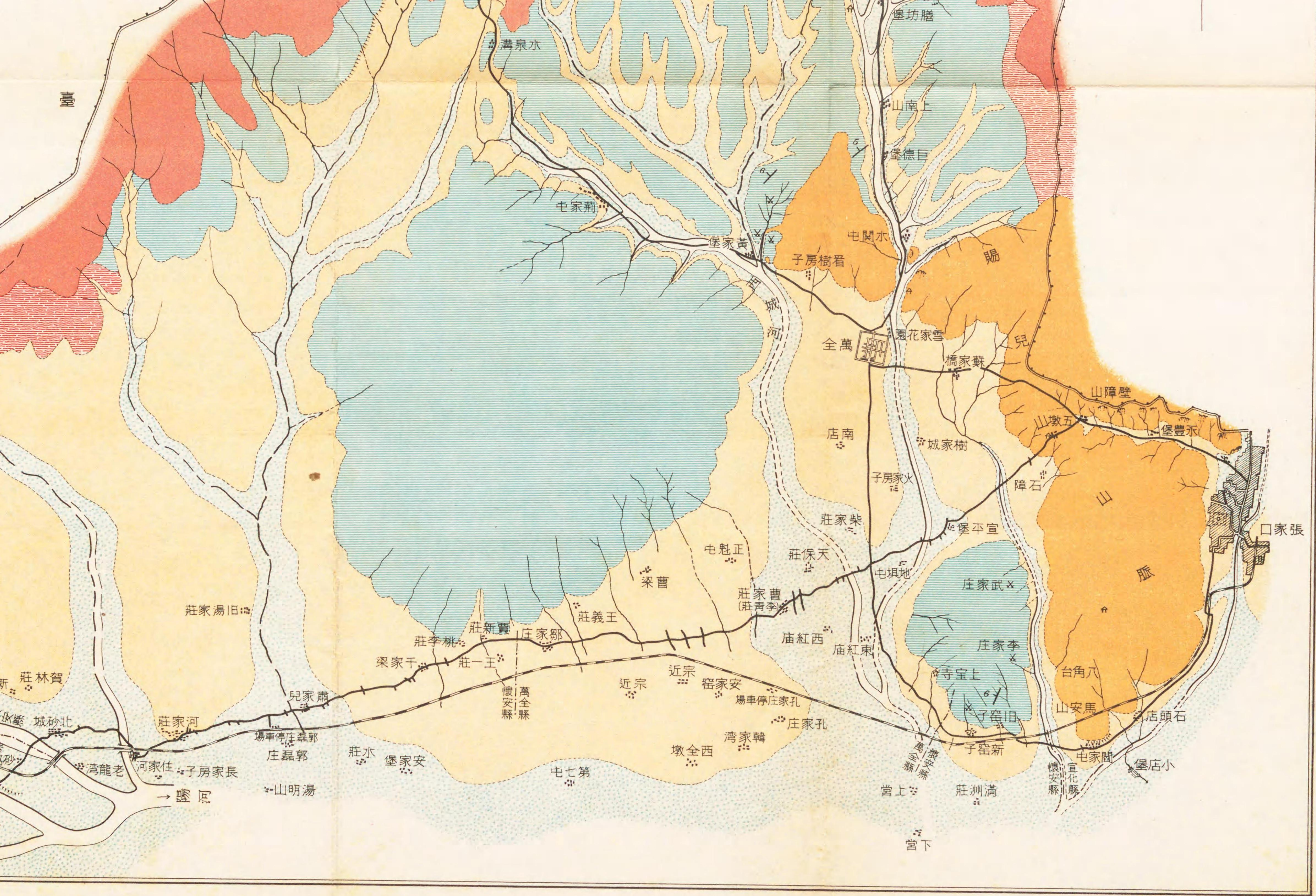
縮尺五十











臺

溝泉水

屯家荆

堡家黃

堡坊膳

山南上

堡德巨

屯關水

子房樹看

賜

全萬

園花家雪

橋家蘇

兒

山障壁

山墩五

堡豐永

口家張

障石

店南

子房家火

城家樹

堡平宣

梁曹

莊保天

屯魁正

莊家曹

(莊青李)

廟紅西

廟紅東

莊家武

莊家李

寺寶上

子窑旧

子窑新

莊洲滿

台角八

山安馬

店頭石

堡店小

屯家閻

懷安縣

宣化縣

莊家湯旧

莊林賀

城砂北

灣龍老

河家住

子房家長

山明湯

莊家湯旧

莊李桃

莊新賈

莊家鄒

莊義王

梁家干

莊一王

兒家肅

場車停庄轟郭

庄轟郭

莊水

堡家安

屯七第

近宗

窑家安

場車停庄家孔

庄家孔

灣家韓

墩全西

營上

營下

山安馬

台角八

店頭石

堡店小

屯家閻

懷安縣

宣化縣

萬全縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣

懷安縣







京綏鐵道沿線張家口大同間鑛產地調查報文

臨時產業調查局技師 門倉三能

大正八年一月二十七日ヨリ二月二十日ニ至ル二十五日間ヲ以テ京綏鐵道沿線張家口、大同間ノ鑛產地及察哈爾特別行政區域ノ張北縣管内ヲ調査セリ、茲ニ附圖ヲ添ヘ調査ノ概略ヲ報告ス

報文中尺ハ日本尺ニシテ畝ハ我六畝六歩ニ相當ス、附圖ハ野稿圖ニ據リ其高距線ハ大要ノ地形ヲ知ルニ便セン爲メ之ヲ描キタルモノナリ

直隸省萬全炭田(地質圖参照)

位置及地勢 萬全炭田ハ萬全縣ノ大部及懷安縣ノ一部ヲ占メ京綏鐵道沿線ニ位シ張家口ノ北西四十支那里乃至南西二十支那里、柴溝堡ノ北東四十支那里ニアリ、其廣袤ハ大略東西三十支那里、南北二十五支那里ナルヘシ、嘗テ採掘セル區域ハ寧







本層ノ基底、之ヲ檢スルヲ得サリシモ其下部ハ主ニ灰白色砂岩ヨリ成リ暗灰色  
 燐岩、灰色頁岩及炭層ヲ挾有シ植物化石ヲ埋藏ス、是レ恐ラク本官ノ山西省大同炭  
 田ニ於テ珠羅紀含炭層ト稱セシモノ、上部ニ位スル地層ニ該當スルモノナラン、  
 其上部ハ主ニ暗紅色砂岩及灰白色砂岩ヨリ成リ褐色燐岩及灰色砂質頁岩ヲ挾有  
 ス、是レ恐ラク大同炭田ニ於ケル珠羅紀乃至珠羅紀以後ノ赤色砂岩層ニ該當スル  
 モノナラン、概シテ含炭層ハ殆ト水平ニ近キ累層ヲナシ北西或ハ西北西五六度ニ  
 傾斜シ石炭ハ露頭部ニ於テ解弛シ易ク燐岩ノ礫ハ石英斑岩、硅岩、片麻岩等ナリ  
 石英粗面岩ハ賜兒山々脈ヲ構成シ外觀淡黑色及灰白色ヲ呈シ稀ニ暗紅色ヲ呈ス  
 ルモノアリ、黃家堡炭礦附近ニ於テ本岩ハ含炭層ノ下部ニ位スル砂岩及燐岩ヲ被  
 覆シ又ハ之ヲ貫キテ岩脈ヲナス

玄武岩ハ調査區域ノ內蒙古高臺ヲ構成シ外觀帶綠黑色ヲ呈シ稀ニ稍大ナル橄欖  
 石ノ斑晶ヲ有スルモノアリ、前記高臺ノ南端ノ邊緣ニ於テ本岩ハ含炭層ノ最上部  
 ニ位スル砂岩ヲ被覆シ又ハ之ヲ貫キテ岩脈ヲナス  
 黃土層ハ調査區域全般ヲ通シテ岩盤ヲ被覆シ殊ニ丘陵地ノ緩傾斜地帯ニ著シク

發達シ其最モ厚キ部ニ於テ三十米ニ達ス

冲積層ハ砂礫及黃土ヨリ成リ河岸ノ平地ヲ構成

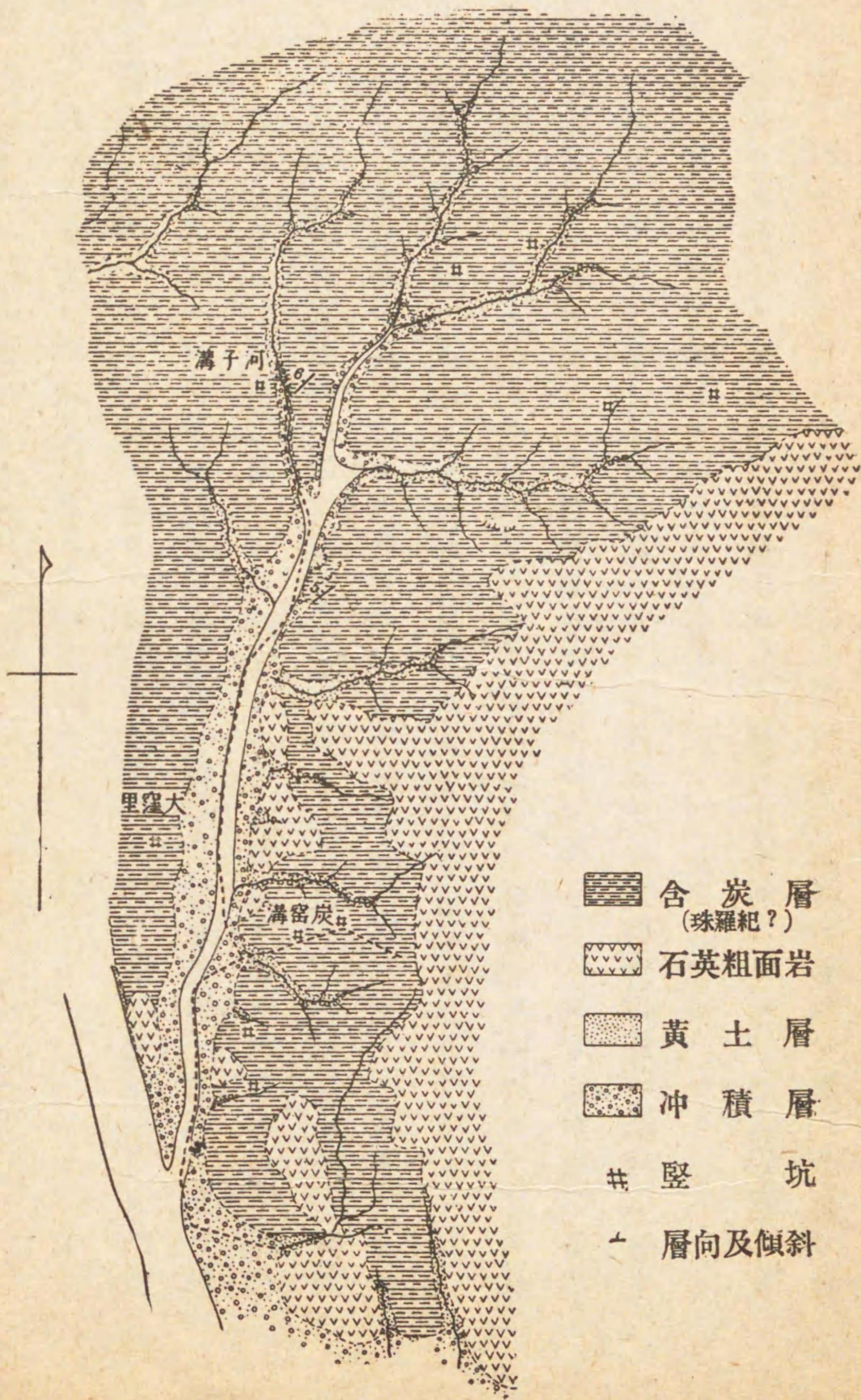
炭層及炭礦 炭層ハ僅ニ一層ヲ檢シ得タルノミニシテ一尺五寸乃至二尺ヲ採炭  
 シ得ヘキモ炭質劣等ニシテ硫黃分多ク、有煙ナリ、巡回ノ際本炭田ニ於テ前記ノ炭  
 層ヨリ下位ノ地層ハ其露出ヲ檢スルヲ得サリシモ本區域外即チ內蒙古ノ土門路  
 (柴溝堡ノ北百五十支那里及馬連圪達柴溝堡ノ北々西百八十支那里、山西省大同炭  
 田等ニ於ケル珠羅紀含炭層中ニハ現ニ稼行セル數炭層ヲ挾有セルニ徴スレハ本  
 炭田ノ含炭層ノ下部ニ或ハ尙數炭層ノ伏在スルナキヲ保シ難シ

本炭田ノ東部ニハ黃家堡炭礦、新窰子炭礦、李家庄炭礦及武家庄炭礦アリテ嘗テ盛  
 ニ操業シ張家口附近ニ於ケル石炭ノ需要ニ供セシカ今ヨリ五六年前京綏鐵道ノ  
 張家口、大同間ノ開通ト共ニ炭質優良ニシテ且廉價ナル大同炭田産石炭輸入セラ  
 ル、ニ及ヒ頓ニ經營困難トナリ終ニ廢業セリ

黃家堡炭礦ハ萬全縣黃家堡(或ハ東黃家堡トモ稱ス)東部ニ在リテ萬全縣城ノ北  
 西十支那里、張家口ノ北西四十支那里ニ位ス、本炭礦ハ前清ノ咸豐年間ノ開發ニ係



圖 二 第  
圖質地礦炭堡家黃縣全萬省隸直  
一之分萬二尺縮



- 含炭層 (珠羅紀?)
- 石英粗面岩
- 黄土層
- 冲積層
- 豎坑
- 層向及傾斜

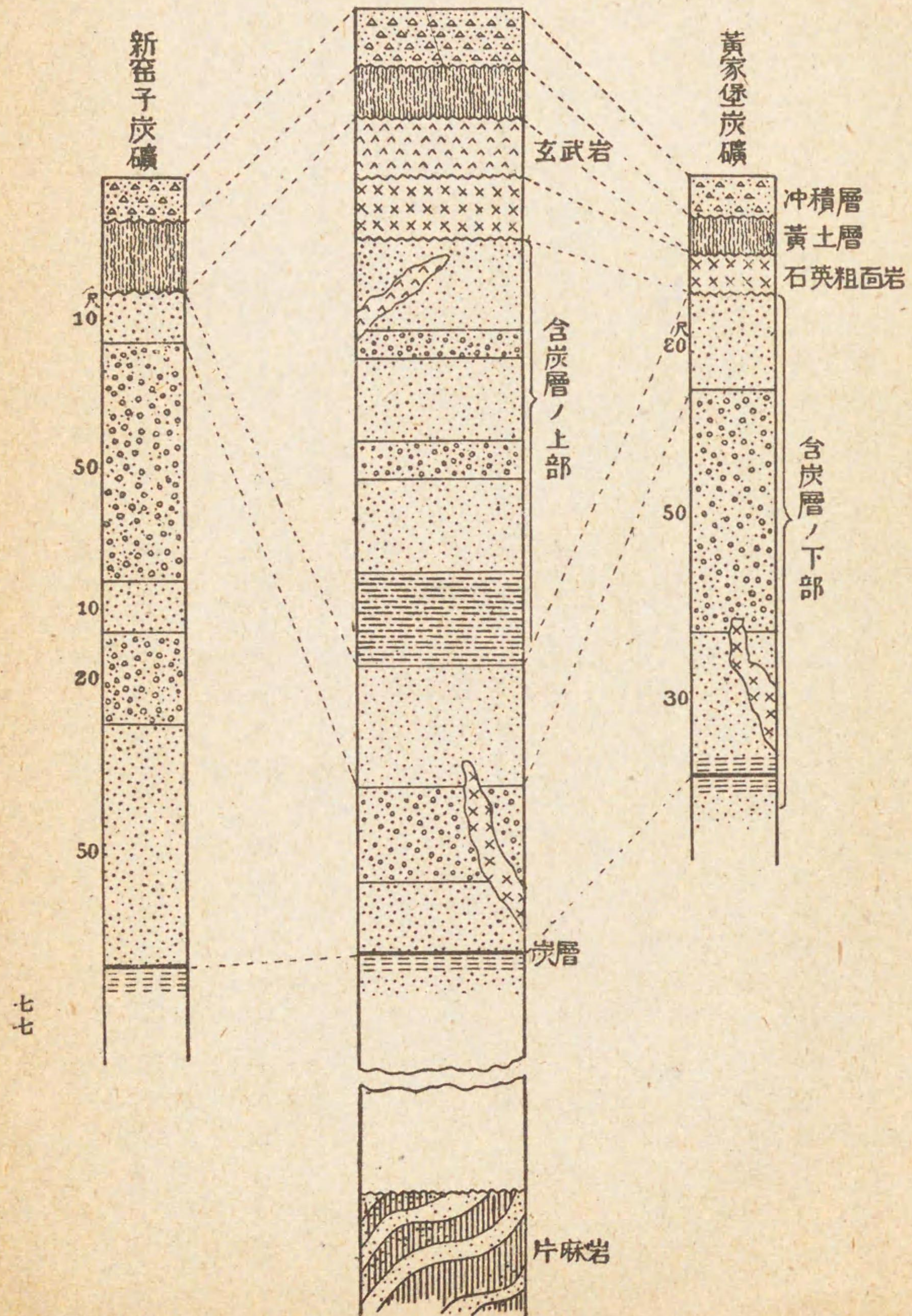
七四

リ土著ノ支那人之ヲ採掘セリ石炭ハ主ニ萬全縣城ニ搬出セラレ當時ノ價格ハ百斤ニ付黃家堡ニ於テ十五銅錢萬全縣城ニ於テ三十銅錢ナリシト云フ採掘跡ハ炭窩溝大窪里及河子溝ニ互リ東西三支那里南北一支那里ナリ坑口ハ丘陵地ノ中腹又ハ頂上ニアリテ豎坑ニヨリ採掘シ其深サハ二十尺ヨリ百尺ニ達シ坑口ニハ轆轤ヲ据附ケ捲揚ノ用ニ供シタリ坑内ノ狀況ヲ承合セルニ炭層ハ略水平ニ賦存シ採炭部ノ厚サハ平均一尺五寸ナリ

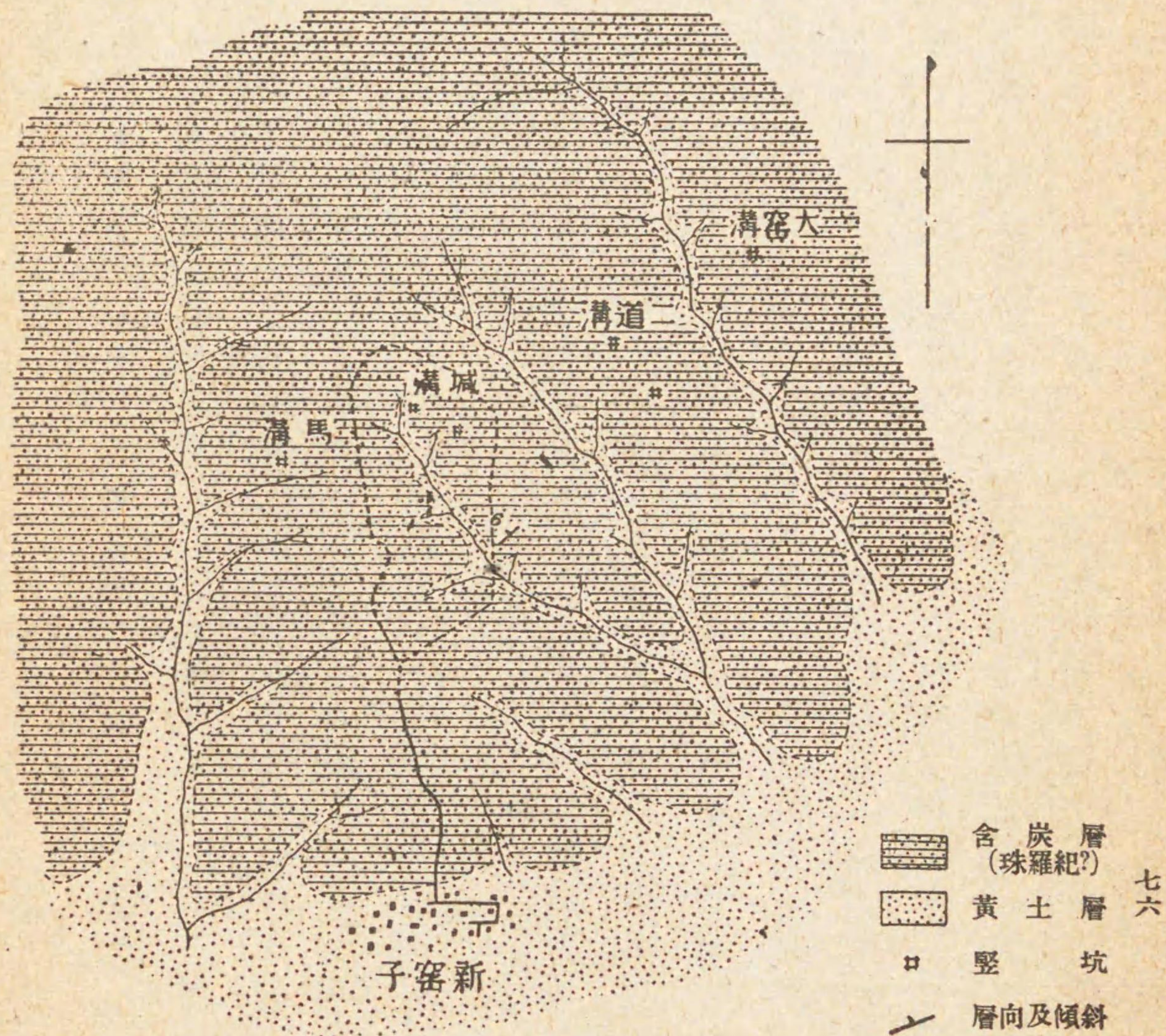
新窰子炭礦ハ懷安縣新窰子ノ北三支那里以内ニ在リテ京綏鐵道沿線ニ近ク張家口ノ南西二十五支那里ニ位ス本炭礦ハ前清ノ光緒年間ノ開發ニ係リ採掘シタル石炭ハ新窰子附近十支那里以内ノ村落ニ於テ之ヲ消費シ當時ノ價格ハ百斤十五銅錢ナリシト云フ採掘跡ハ馬溝碱溝二道溝及大窰溝ニアリ坑口ハ丘陵地ノ中腹ニアリテ豎坑ニヨリ採掘シ其深サハ馬溝ニテ百五十尺碱溝二道溝及大窰溝ニテ七八十尺ナリ捲揚裝置ニハ轆轤ヲ用ヒタリ馬溝ハ宣化府ノ馬某始メテ之ヲ開坑セシカ其廢業ト共ニ上寶寺村有鑛區トナリ碱溝二道溝及大窰溝ハ現ニ新窰子ノ孟浩ノ所有鑛區ナリ坑内ノ狀況ヲ承合セルニ炭層ハ略水平ニ賦存シ採炭部ノ厚



圖四第  
圖面斷狀柱質地田炭全萬省隸直



圖三第  
圖質地礦炭子窑新縣安懷省隸直  
一之分千五萬一尺縮







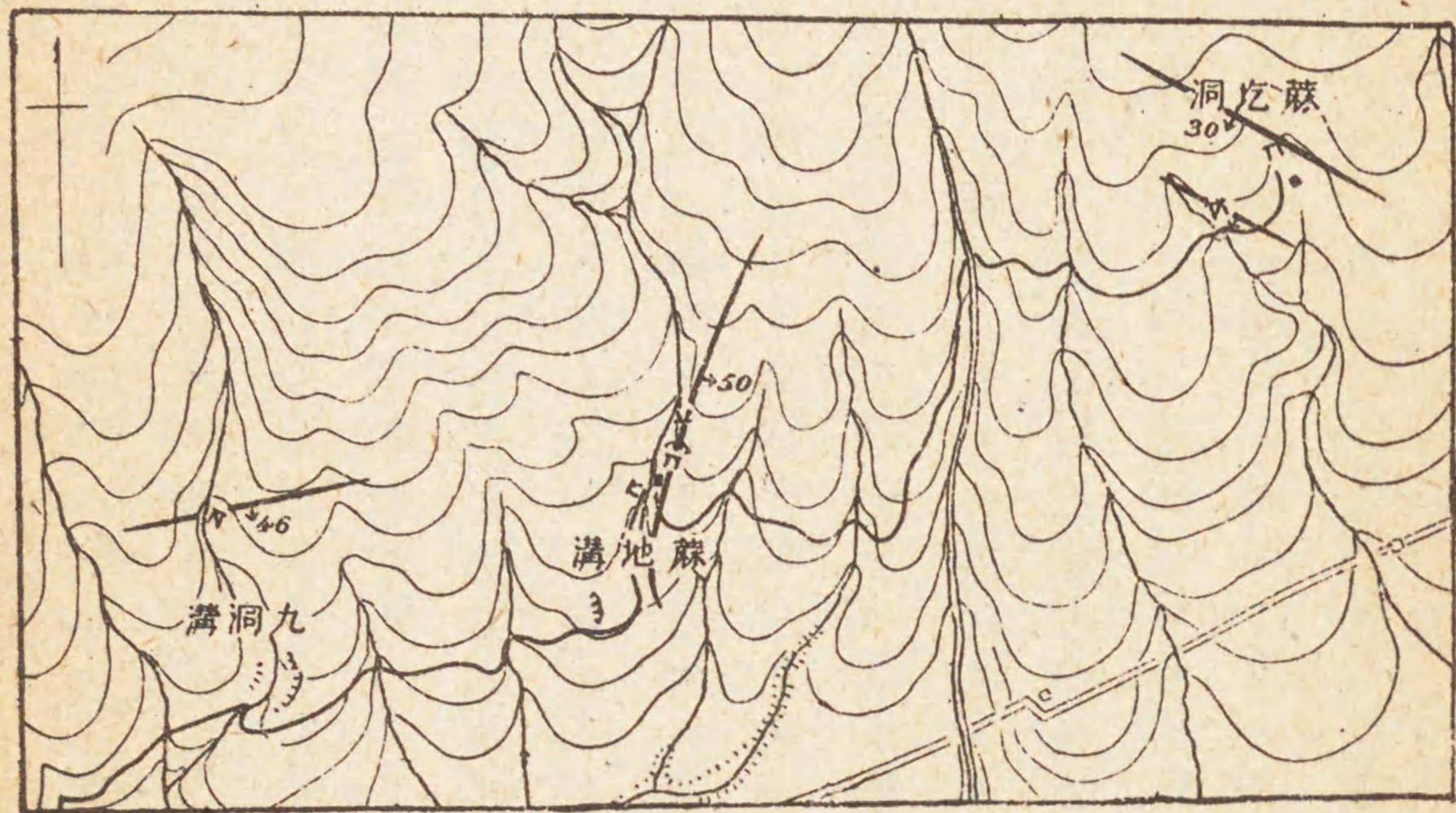


十支那里ニ達ス

地形及地質 鑛區附近ハ陽河ノ北岸ニ略東西ニ走レル一山脈ニシテ河岸ノ平地ヲ拔クコト五六百米ナリ、本山脈ノ北側ハ緩慢ナル山貌ヲ呈シテ所謂內蒙古高臺ニ連互スルモ南側ハ急斜シ其山麓ニハ萬里ノ長城アリ、長城ヨリ以南ノ地帯ハ頓ニ緩傾斜地トナリ漸次陽河流域ノ平地ニ沒ス、山脈ハ片麻岩層ヨリ成リ緩傾斜地ハ黃土層平地ハ沖積層ヨリ成レリ、片麻岩層ハ主ニ黑雲母片麻岩角閃片麻岩及花崗片麻岩ヨリ成リ時ニ黑雲母片麻岩中ニハ柘榴石或ハ石墨ヲ含有スルモノアリ、其層向ハ本鑛山附近ニ於テハ東北東ヨリ西南西ニシテ南々東三四十度ニ傾斜ス鑛床ハ黑雲母片麻岩又ハ角閃片麻岩中ニ胚胎セル石英質ノ鉛鑛脈ニシテ數條アルモ蘇屹洞、蘇地溝及九洞溝ノ三坑ニ於テ採掘シタル三鑛脈ヲ著シトス、概シテ鑛脈ト母岩トノ間ニハ厚サ五寸内外ノ粘土挾在ス、鑛脈ハ精細ニ之ヲ檢スルニ石英帶、閃亞鉛鑛帶及方鉛鑛帶ノ三部ニ區別スルヲ得、石英帶ハ鑛脈ノ上下兩盤ニ近キ部ニアリテ最モ厚ク主ニ石英ヨリ成リ黃銅鑛、閃亞鉛鑛及黃鐵鑛點在ス、閃亞鉛鑛帶ハ石英帶ノ内側ニ之ニ並行シテ存在シ主ニ閃亞鉛鑛ヨリ成リ方鉛鑛ヲ雜フ、

第六圖

山西省天鎮縣水磨口鉛鑛山鑛床圖



方鉛鑛帶ハ良好ニシテ閃亞鉛鑛帶ノ間ニ挾在シ中央部ヲ構成シ方鉛鑛ノミヨリ成ル、本鑛山ニ於テ鑛石トシテ採掘シタルハ方鉛鑛帶及閃亞鉛鑛帶ニシテ銀ヲ含有セルカ如シ  
蘇屹洞ニ於ケル鑛脈ハ走向北五十度西、傾斜南西三十度ニシテ延長少ナクトモ千尺ニ達ス、露頭ニ於ケル脈幅ハ五六尺アリテ主ニ石英ヨリ成ルモ坑内ニテハ嘗テ富鑛部二尺ヲ採掘シタリト云フ  
蘇地溝ニ於ケル鑛脈ハ走向北十度東、傾斜東五十度ニシテ延長少ナクモ千二百尺ニ達ス、露頭ニ於ケル脈幅八十



尺内外アリテ主ニ石英ヨリ成リ閃亜鉛鑛帶及方鉛鑛帶ノ厚サ合シテ八九寸ナル  
モ坑内ニテハ嘗テ富鑛部三尺ヲ探掘シタリト云フ

九洞溝ニ於ケル鑛脈ハ走向略東西、傾斜南四十六度ニシテ延長少ナクモ五百尺ナ  
ルヘシ、露頭ニ於ケル脈幅ハ四五尺アリテ主ニ石英ヨリ成リ閃亜鉛鑛帶及方鉛鑛  
帶ノ厚サ合シテ五六寸ナルモ坑内ニテハ嘗テ富鑛部一尺五寸ヲ探掘シタリト云  
フ

前記ノ各鑛脈ハ露頭ニ於テハ何レモ貧鑛タルヲ免レスト雖モ坑外ニ堆積セル鑛  
石及廢石ヲ見ルニ方鉛鑛ノミヨリ成レル大塊竝ニ方鉛鑛及閃亜鉛鑛ノ交雜セル  
大塊極メテ多量ナリ、本鑛山ニハ數舊坑アルモ悉ク崩壞或ハ瀦水シ爲ニ深ク入坑  
實査スルコト能ハサリシハ遺憾トスル所ナリ

沿革 本鑛山ハ古ク土民ノ發見ニ係リ多少探掘セル形跡アルモ當時ノ狀況詳カ  
ナラス、民國二年ニ至リ普晉公司ノ經營スル所トナリ以テ今日ニ至レリ、普晉公司  
ハ事務所ヲ水磨口ニ設ケ總理ハ徐一清ト稱ス、而カモ同公司ハ山西督軍閻錫山ノ  
鑛業事務ヲ司リ協理兼探鑛科長ハ胡嵩、早稻田大學理工科卒業生、經理科長ハ閻子

安山西督軍ノ叔父、製鍊科長ハ楊天章、東北帝國大學工學專門部卒業生ナリ

民國二年胡嵩坑夫四五十人ヲ使役シ本鑛山ヲ探鑛シ閻山西督軍ニ其有望ナルヲ  
報告セリ、翌三年胡嵩ハ機械購入其他ノ用務ヲ帶ヒテ日本國ニ派遣ヲ命セラレ楊  
天章及井上哲雄(早稻田大學理工科卒業生)ヲ伴ヒ歸國シ專ラ探鑛ニ從事シ民國四  
年ニハ坑夫二百人ヲ使役シテ盛ニ探掘ヲ開始シ又同年製鍊場ノ設備完成セシヲ  
以テ試驗的ニ製鍊ヲナシ約七千斤ノ鉛精品ヲ得タリ、民國五年井上哲雄ハ任滿チ  
テ日本ニ歸國シタリ、其後繼續シテ探掘セシモ未タ好果ヲ得ルニ至ラスシテ終ニ  
民國七年二月休業シ同時ニ水磨口ノ北二十支那里ノ黄土窰ニ於ケル石墨ノ採取  
ニ從事セリ、巡回ノ際本鑛山事務所ハ依然トシテ存シ製鍊場ニハ東京大塚工場製  
熔鑛爐、大阪發動機會社製發動機、高田商會製「ダイヤモンド」試錐機械等アリ  
鑛石 ハ山元ニ於テ一回製鍊ニ附シタルノミニテ殘鑛ハ選鑛ノ上之ヲ製鍊場附  
近ニ堆積ス、其品位ハ楊天章ノ分析ノ結果ニ依レハ鉛百分中四十、銀千分中一ヲ含  
有シ精品ハ百分中九十ノ鉛ヲ含有スト云フ  
本鑛山ニ就キテハ單ニ二三ノ露頭ヲ檢シタルノミニシテ地下ノ狀況ヲ實査セサ



ルヲ以テ茲ニ本鑛山ノ價值ヲ判定シ難キモ尙探鑛スヘキ價值アリト思惟スルモノナリ

黃土窰石墨山 水磨口鉛鑛山ハ附帶事業トシテ民國七年二月水磨口ノ北二十支那里ノ黃土窰ニ於テ石墨ノ採取ヲ開始セリ、本鑛山ニテハ毎日坑夫五六十人ヲ使役シ其探掘量ハ五日間ニ石墨ノ粗精品約二噸ノ割合ニシテ悉ク之ヲ貯藏シ未タ賣却セシコトナシ、巡回ノ際原地ヲ踏查セサリシモ石墨及母岩ノ標本ヲ檢セシニ

石墨ハ黑雲母片麻岩中ニ胚胎シ岩石百分中ニ五乃至十ノ石墨ヲ含有ス  
石墨ヲ採取スルニハ片麻岩ヲ粉碎シテ篩ヒ同大ノ粒子トナシ唐箕ニテ分離ス、即チ石墨及黑雲母ハ岩片ニ比シ共ニ輕キヲ以テ稍遠クニ飛去リ岩片ハ近クニ落下ス、斯クシテ得タル石墨及黑雲母ノ混合物ハ即チ本鑛山ニ於ケル精品ニシテ中ニ百分中五十乃至六十ノ石墨ヲ含有ス、更ニ之ヲ精選スルニハ油選鑛ヲ要スヘキモ未タ其企畫ナシ

黃土窰附近ノ黑雲母片麻岩中ニハ多量ノ柘榴石ヲ含有スルモノアリ、嘗テ本鑛山ニ於テ是ヨリ柘榴石ヲ採取シ現ニ約二噸ノ貯藏アリ

### 山西省大同炭田ノ鐵鑛 (第一回踏査線路圖参照)

- (一) 大同縣王家園村ノ鐵鑛 產地ハ大同縣城ノ西南西十五支那里、口泉山脈ノ南東側ニ位ス、此附近ハ上部石炭紀含炭層ト寒武利亞「オールドヴギシア」紀石灰岩層トノ接觸スル處ニシテ上部石炭紀ノ基底層ハ赤褐色頁岩及砂岩ノ互層ヨリ成リ褐鐵鑛ヲ介有ス、本鐵鑛層ハ厚サ三四尺ニシテ鐵鑛ノ質粗惡ナリ、嘗テ普晉公司之ヲ探掘シ天鎮縣水磨口鉛鑛山ニ於テ鉛精鍊ノ際熔劑トシテ使用セシコトアリシト云フ
- (二) 大同縣口泉鎮ノ鐵鑛 口泉鎮停車場ニ近ク二道溝炭礦アリ、其坑口附近ニハ寒武利亞「オールドヴギシア」紀石灰岩層ヲ不整合ニ被覆シテ上部石炭紀含炭層ニ屬スル赤褐色頁岩及砂岩露出ス、赤色頁岩中ニハ褐鐵鑛ヨリ成レル大小ノ團塊數多介在シテ鐵鑛層ヲ成ス、其厚サ不規則ナルモ三尺内外ナリ、本鐵鑛ハ土人嘗テ之ヲ探掘セシコトアリシモ質粗惡ナレハ現在之ヲ顧ミルモノナシ
- (三) 懷仁縣管內ノ鐵鑛轉石 懷仁縣城ノ西方二十支那里ニ口泉山脈アリ、此附近ハ上部石炭紀含炭層ト寒武利亞「オールドヴギシア」紀石灰岩層トノ境スル處ニシテ褐鐵



鑛ノ小塊數多散在スルモ終ニ其露頭ヲ發見スルニ至ラス該境界ハ北東ヨリ南西ニ走ルモノ、如キモ黃土又ハ表土ニ被覆セラル、ヲ以テ之ヲ檢スルニ難シ、巡回ノ際鷺毛口村鐵匠爐溝、十井村及吾道村吾道溝ノ三箇處ニ於テ赤褐色砂岩或ハ頁岩中ニ介在セル不純ナル褐鐵鑛ノ轉石竝ニ嘗テ土人ノ精鍊セシ鐵ノ殘滓ヲ目撃セリ

(四) 平魯縣交界及且子山附近ノ鐵鑛轉石 交界及且子山附近ハ上部石炭紀含炭層ト寒武利亞「オルドヴィシア」紀石灰岩層ト相接スルトコロニシテ茲ニ露出スル鐵鑛ハ暗紅色砂岩中ニ介在セル褐鐵鑛ナリ、其質粗惡ニシテ探求ノ價值ナシ

昭和十七年九月十日印刷  
昭和十七年九月十五日發行

著作權所有者

商 工 省

發行所

東京市麴町區平河町二丁目六番地

北支那開發株式會社

代表者 山内信雄

東京市豐島區高田南町二丁目四百八十番地

仙 葉 元 太 郎

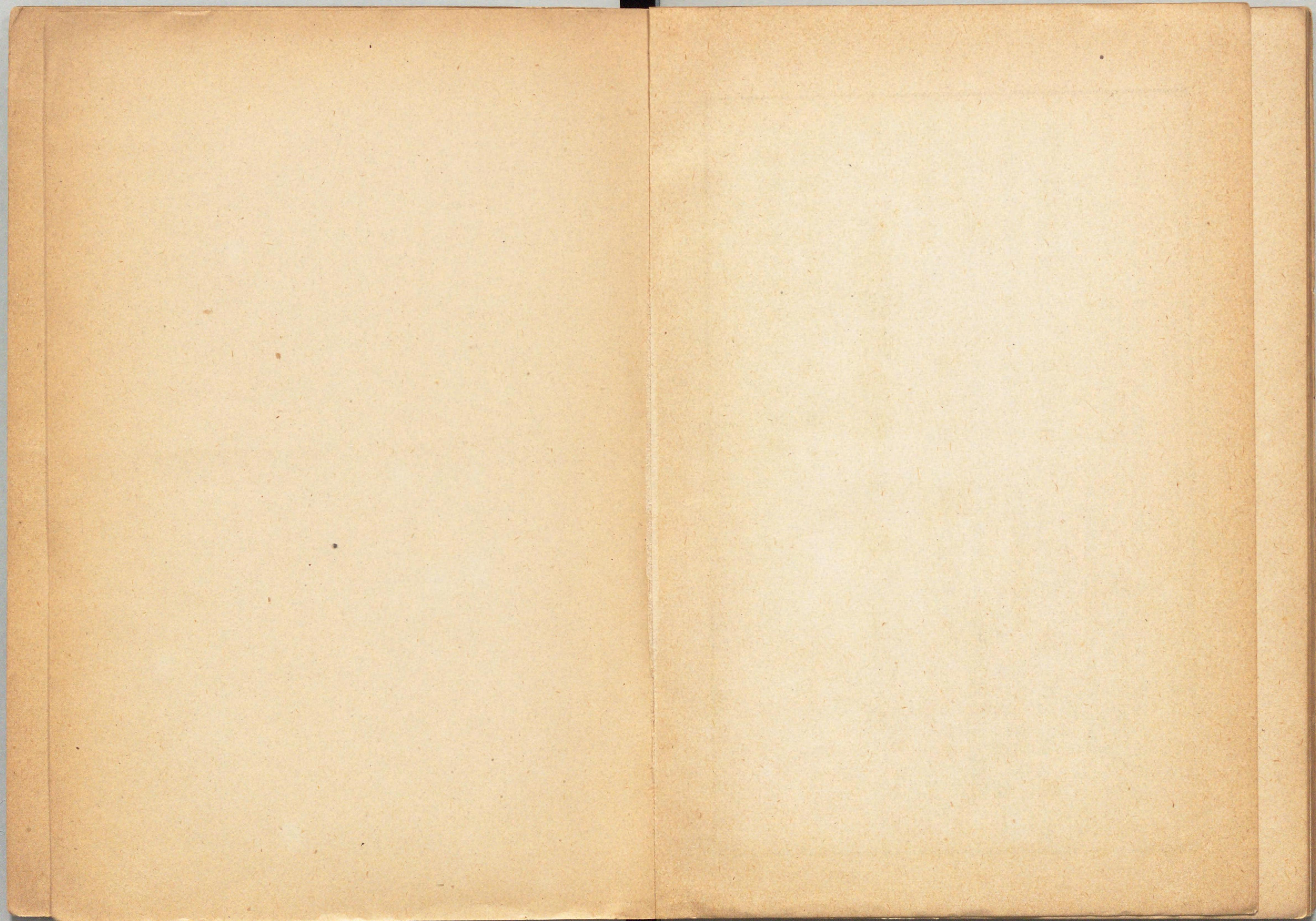
印刷者

東京市豐島區高田南町二丁目四百八十番地

株式會社仙葉印刷所

印刷所







秘 1  
55



